

亀山市人口ビジョン

(平成29年2月改訂)

平成29年2月

亀山市

【目次】

I 亀山市における人口の現状分析.....	1
1 亀山市の人口動向分析.....	1
(1) 総人口の推移と将来推計.....	1
(2) 年齢別人口の推移と将来推計.....	2
(3) 人口構造の人口ピラミッドによる比較.....	4
(4) 出生・死亡、転入・転出の推移.....	5
(5) 総人口の推移に与えてきた自然増減と社会増減の影響.....	6
(6) 家族類型別世帯数の推移と将来推計.....	7
(7) 産業別就業者数.....	9
(8) 昼夜間人口比率（2010年）.....	11
(9) 地区別人口の推移.....	12
(10) 外国人人口の推移.....	13
2 亀山市における人口の自然増減の要因分析.....	14
(1) 自然増減の推移.....	14
(2) 合計特殊出生率の推移と県内各市町との比較.....	15
(3) 未婚率の推移.....	17
3 亀山市における人口の社会増減の要因分析.....	18
(1) 社会増減の推移.....	18
(2) 最近の年齢別人口移動の状況.....	19
(3) 年齢階級別人口移動の推移.....	21
(4) 亀山市と他の県内自治体間の人口移動の状況.....	23
(5) 性別・年齢階級別の人口移動の状況.....	26
(6) 液晶関連企業立地による人口への影響の検証.....	29
4 亀山市の将来人口.....	32
(1) 亀山市の将来人口の推計.....	32
(2) 老年人口比率の変化（長期推計）.....	35
5 人口減少及び人口構成の変化がもたらす課題.....	36
II 亀山市における人口の将来展望.....	37
1 めざすべき人口の将来展望.....	37
(1) 人口展望.....	37
(2) 年齢別人口の展望.....	38
(3) 対策の方針.....	41

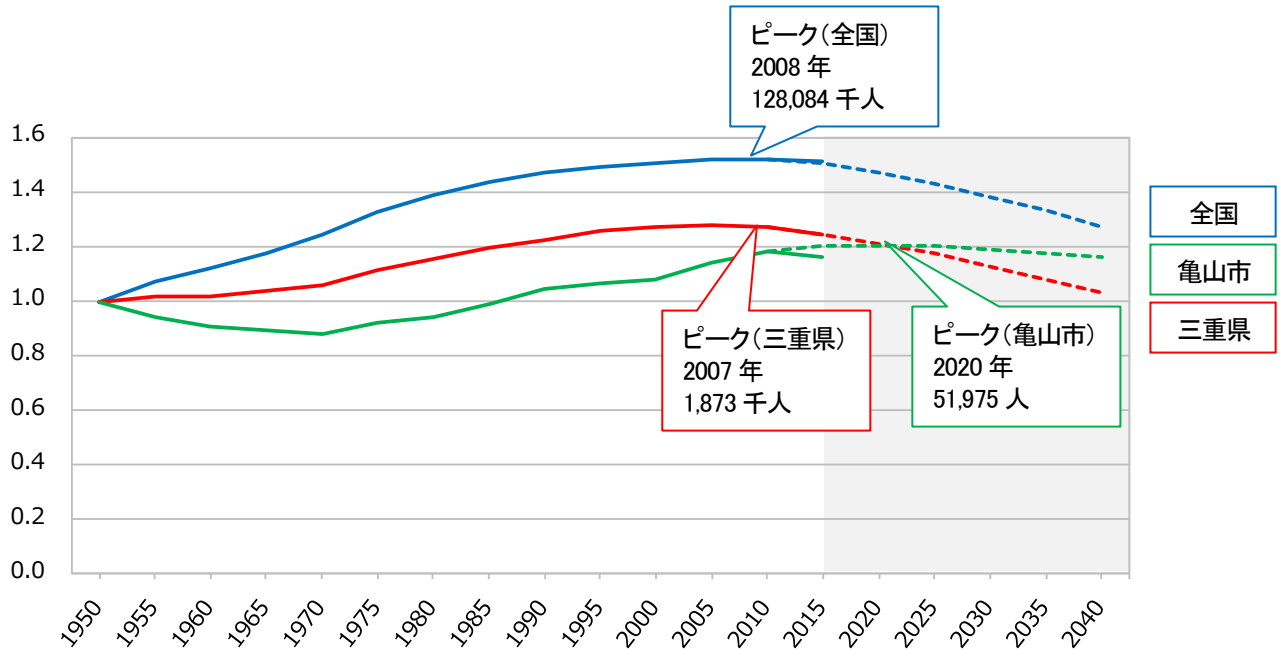
I 亀山市における人口の現状分析

1 亀山市の人口動向分析

(1) 総人口の推移と将来推計

○国、県及び亀山市における、1950年から2015年までの総人口の推移と、国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）による2015年から2040年までの将来推計を見たのが次のグラフです。

【図 I-1 亀山市、三重県、全国の5年毎の人口及び将来推計人口の推移】



出典：国勢調査等（実線）、社人研推計（点線）

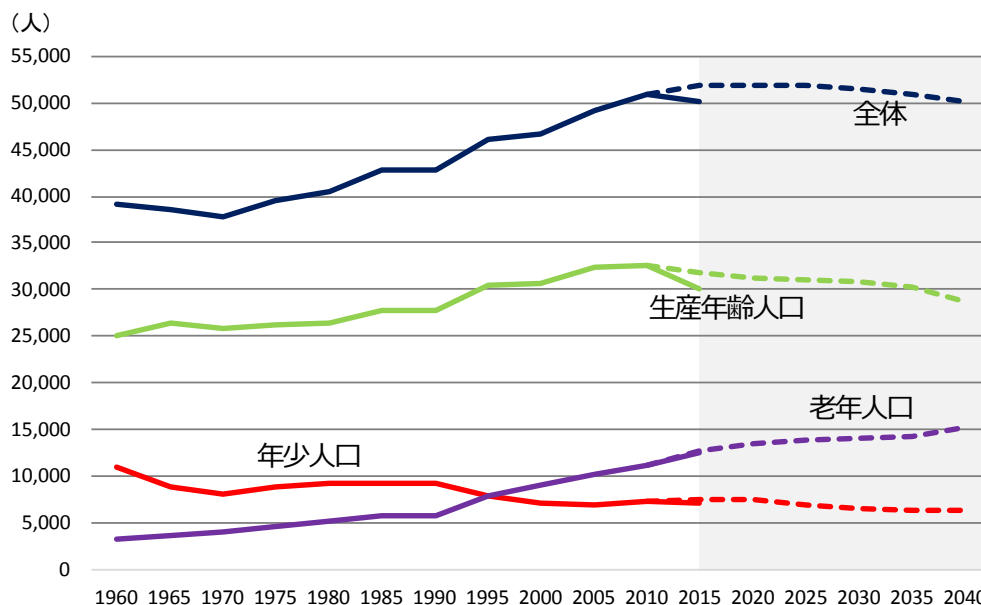
- ◇国・県の総人口は、全国では高度経済成長期となる1950年から1985年の間は人口が急激に増加しています。その後、増加のペースは緩やかになり、国は2008年、県は2007年をピークに減少に転じています。
- ◇一方、亀山市は高度経済成長期の前半の1950年から1970年の間は人口が減少し、その後増加に転じています。2000年からは増加のペースが速まり、社人研推計（平成25年3月推計）では国・県よりも10年ほど遅れた2020年をピークに人口減少に入ると推計されています。

(2) 年齢別人口の推移と将来推計

○亀山市における1960年から2015年までの人口及び2015年から2040年までの将来推計人口の推移について、年少人口(0~14歳)、生産年齢人口(15~64歳)、老年人口(65歳以上)の3区分で見たのが次のグラフです。

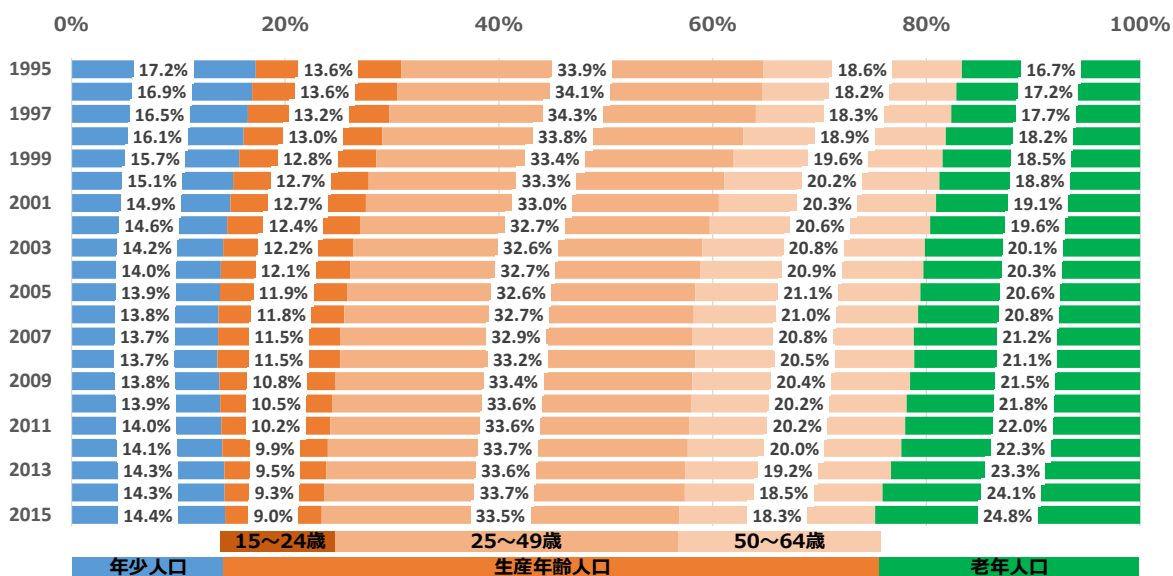
○その下のグラフは、生産年齢人口(15~64歳)について、更に3つの区分(15~24歳、25~49歳、50~64歳)に細分化して1995年から2015年までを表しています。

【図I-2 年齢3区分別人口の推移(亀山市)】



出典：国勢調査（実線）、社人研推計（点線）

【図I-3 年齢構成の推移】



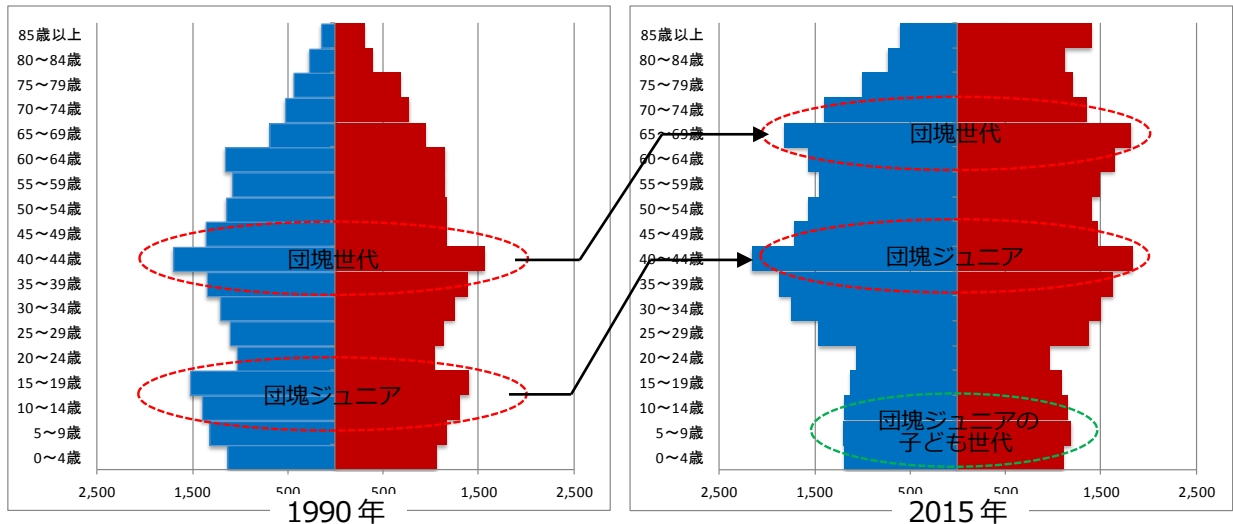
出典：住民基本台帳

- ◇亀山市では、生産年齢人口が2010年まで増加を続けていましたが、2010年以降は減少に転じ、今後もその傾向が続くと推計されています。
- ◇年少人口は、総じて減少傾向にありますが、1970～1985年の間と2005～2015年の間は増加が見られます。
- ◇老年人口は、一貫して増加を続けており、2000年には年少人口を上回っています。

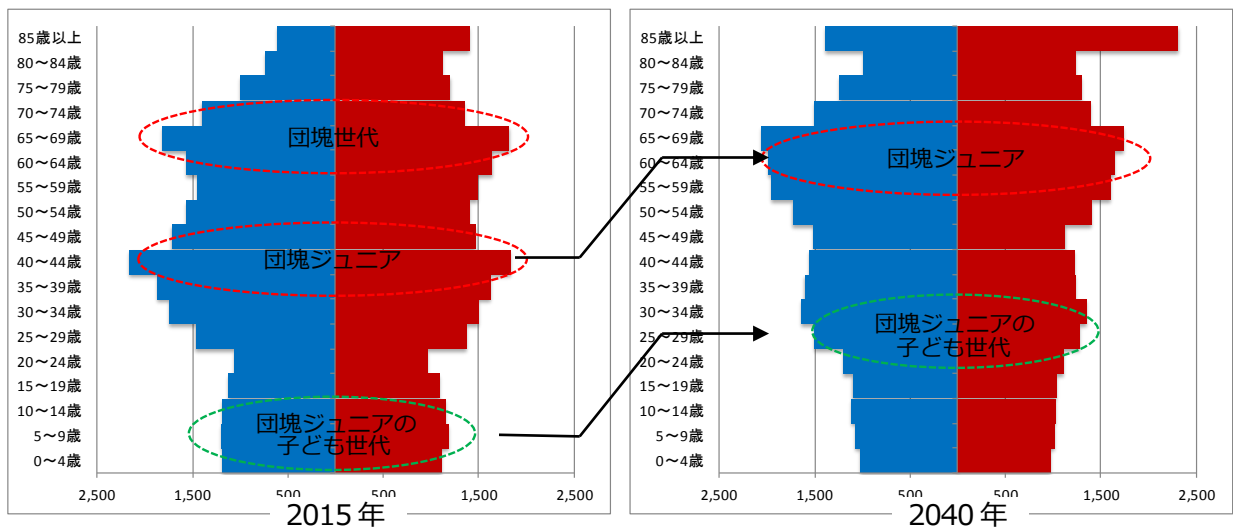
(3) 人口構造の人口ピラミッドによる比較

○亀山市の2015年の人口とその前後25年にあたる1990年の人口及び2040年の推計人口について、人口ピラミッドで比較したのが次の図です。

【図I-4 1990年及び2015年の人口ピラミッド比較（亀山市）】



【図I-5 2015年及び2040年（将来推計）の人口ピラミッド比較（亀山市）】



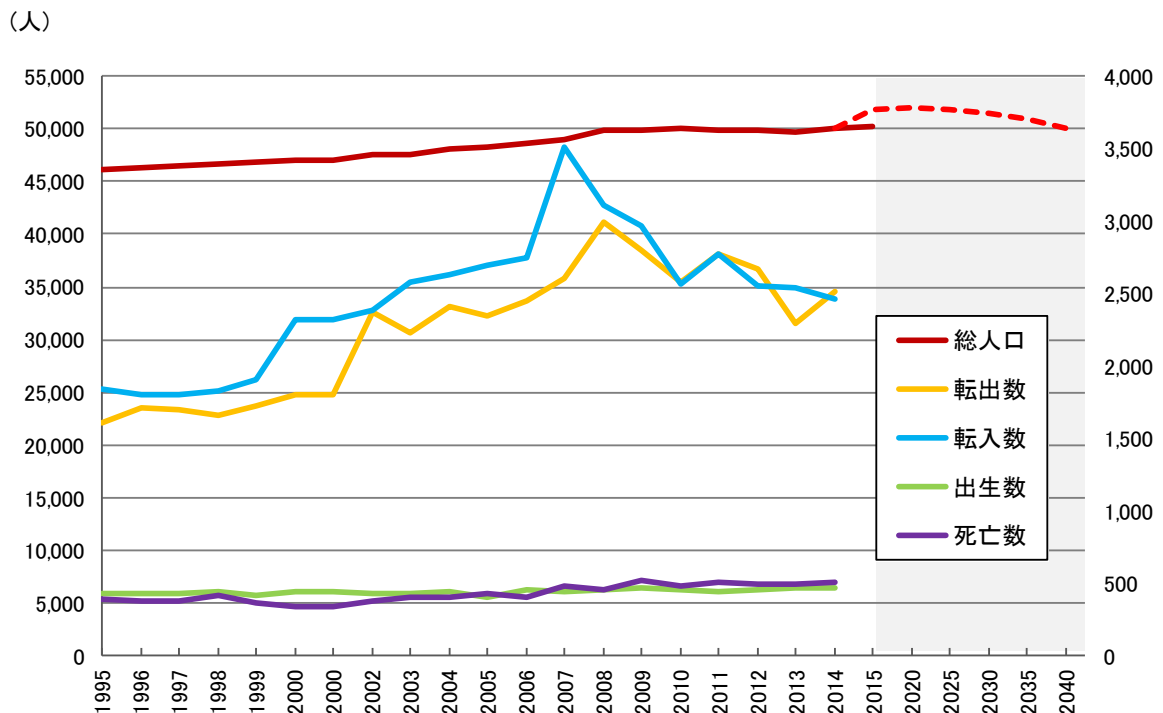
出典：国勢調査（2040年は社人研推計）

- ◇人口ピラミッドを1990年と2015年を比較すると、2015年には団塊ジュニアの世代とその子ども世代である0～9歳の世代が増加傾向にあります。
- ◇2015年の人口ピラミッドに見られる団塊ジュニアの子ども世代の増加は一時的であり、その下の世代になると人口は再び減少していくと推計されています。

(4) 出生・死亡、転入・転出の推移

○亀山市における 1995 年から 2014 年までの出生・死亡数及び転入・転出数の推移を見たのが次のグラフです。

【図 I-6 出生・死亡数、転入・転出数の推移（亀山市）】



出典：2014 年までの総人口は県統計課「市町(村)累年統計」（1995 年、2000 年、2005 年、2010 年は国勢調査）、2015 年以降の総人口（点線部分）は社人研推計値より作成（各年 10 月 1 日現在）

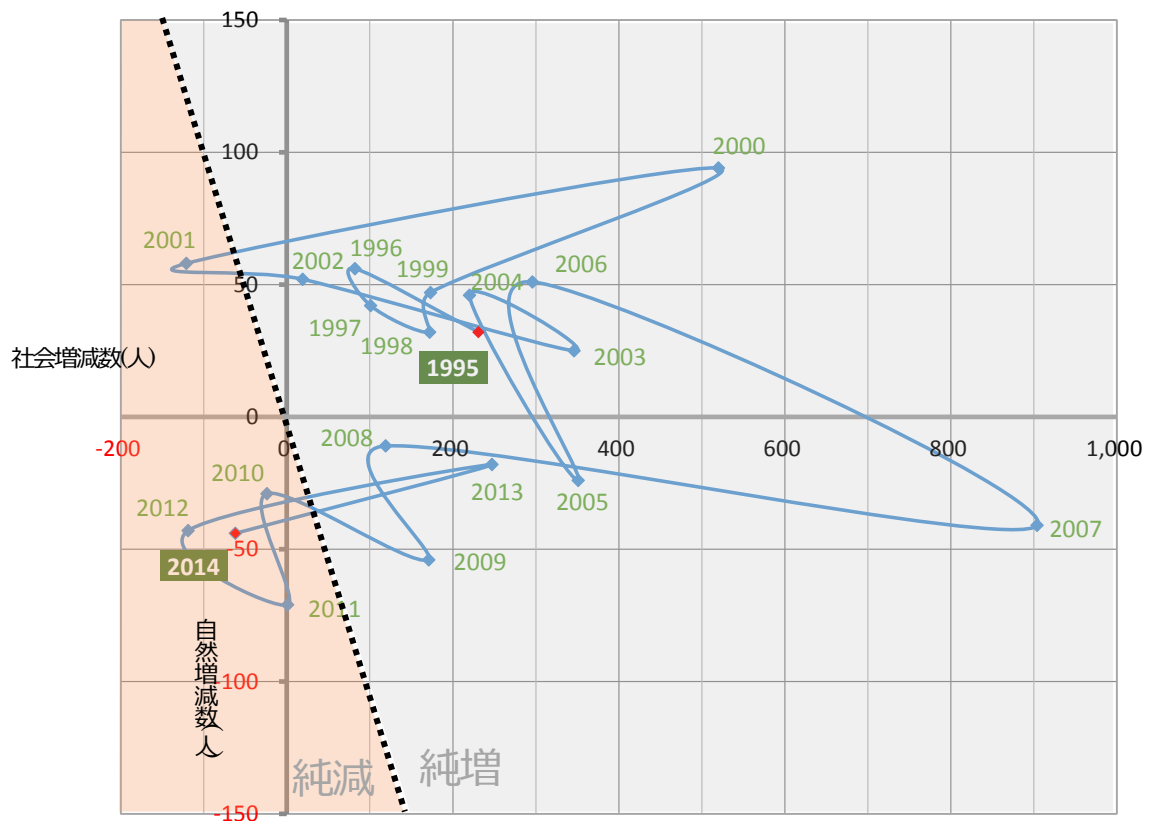
2014 年までの出生、死亡、転入、転出数は、住民基本台帳より作成

◇亀山市では、自然増減については、2004 年までは概ねプラスで推移していましたが、2005 年にマイナスに転じ、2007 年以降はマイナスが続いています。
 ◇社会増減は 2009 年頃までは概ねプラスで推移し、2006～2007 年は大きな転入超過がありました。2010 年以降は振れ幅が激しく、マイナスになる年もあります。

(5) 総人口の推移に与えてきた自然増減と社会増減の影響

○自然増減と社会増減が総人口の推移に与えてきた影響を見たのが次の図で、横軸が社会増減の影響、縦軸が自然増減の影響となります。

【図 I-7 総人口の推移に与えてきた自然増減と社会増減の影響（亀山市）】



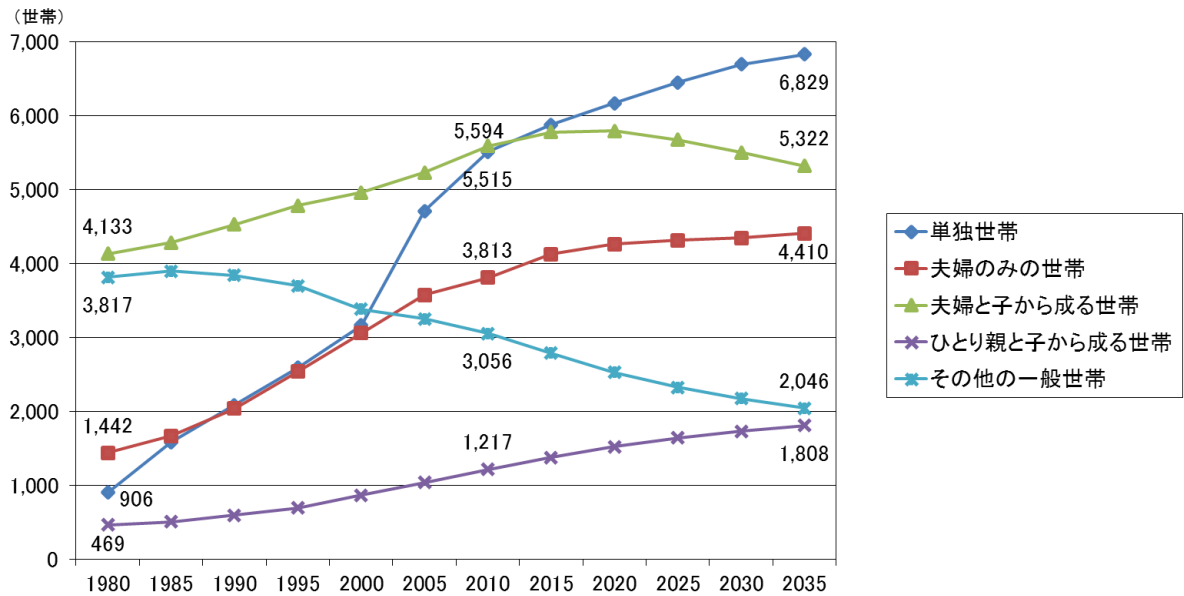
出典：住民基本台帳

◇亀山市では、1995年から2004年までは2001年を除き、自然増減・社会増減ともプラスで推移していました。2007年以降、自然増減はマイナスで推移するようになったものの、2009年までは自然増減のマイナスを社会増がカバーをすることにより、純増減ではプラスで推移していました。しかし、2010年以降は2013年を除き、自然増減と社会増減を合わせた純増減でもマイナスになっています。

(6) 家族類型別世帯数の推移と将来推計

○ 亀山市における 1980 年から 2035 年までの家族類型別世帯数の推移及び将来推計を見たのが次のグラフです。下の円グラフでは、同期間の比率の変化を表しています。

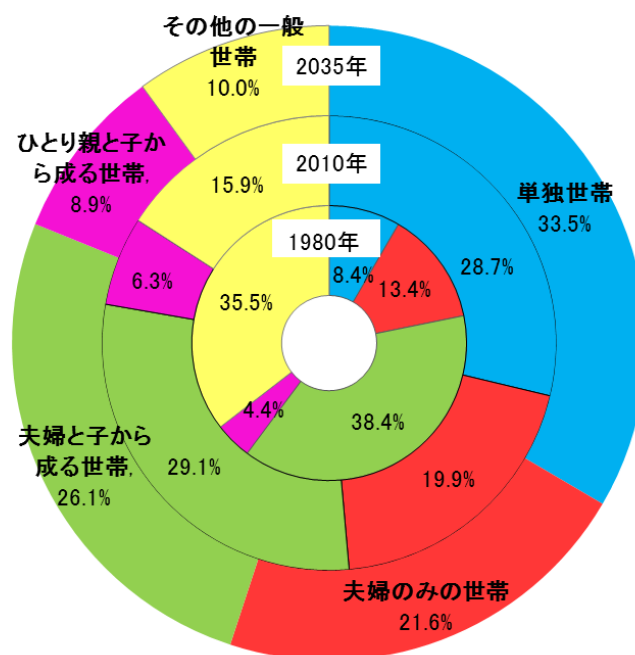
【図 I-8 家族類型別一般世帯数の推移（亀山市）】



出典：国勢調査

出典：社人研推計を基に独自推計

【図 I-9 一般世帯の家族類型別比率の推移（亀山市）】

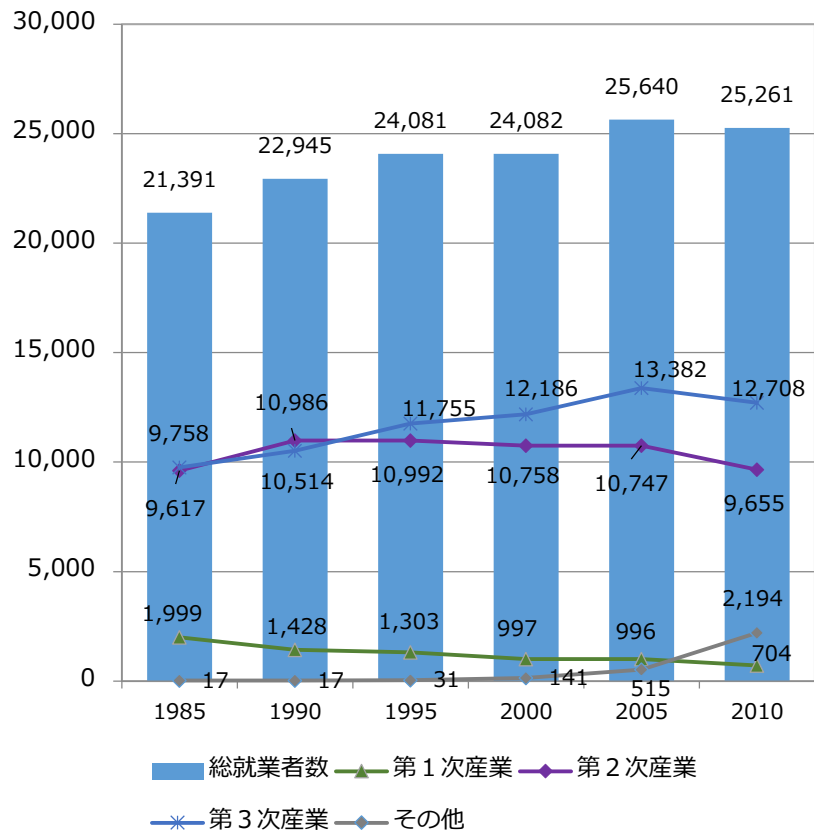


- ◇夫婦と子から成る世帯及びその他の一般世帯等が減少する一方、単独世帯及び夫婦のみの世帯が大きく増加しています。
- ◇単独世帯と夫婦のみの世帯の合計は、1980 年では 21.8%でしたが、2010 年には 48.6%となっており、2035 年の推計では 55.1%と半数を超えると推計されます。

(7) 産業別就業者数

○ 亀山市における 1985 年から 2010 年までの産業別の就業者数を見たのが次のグラフです。

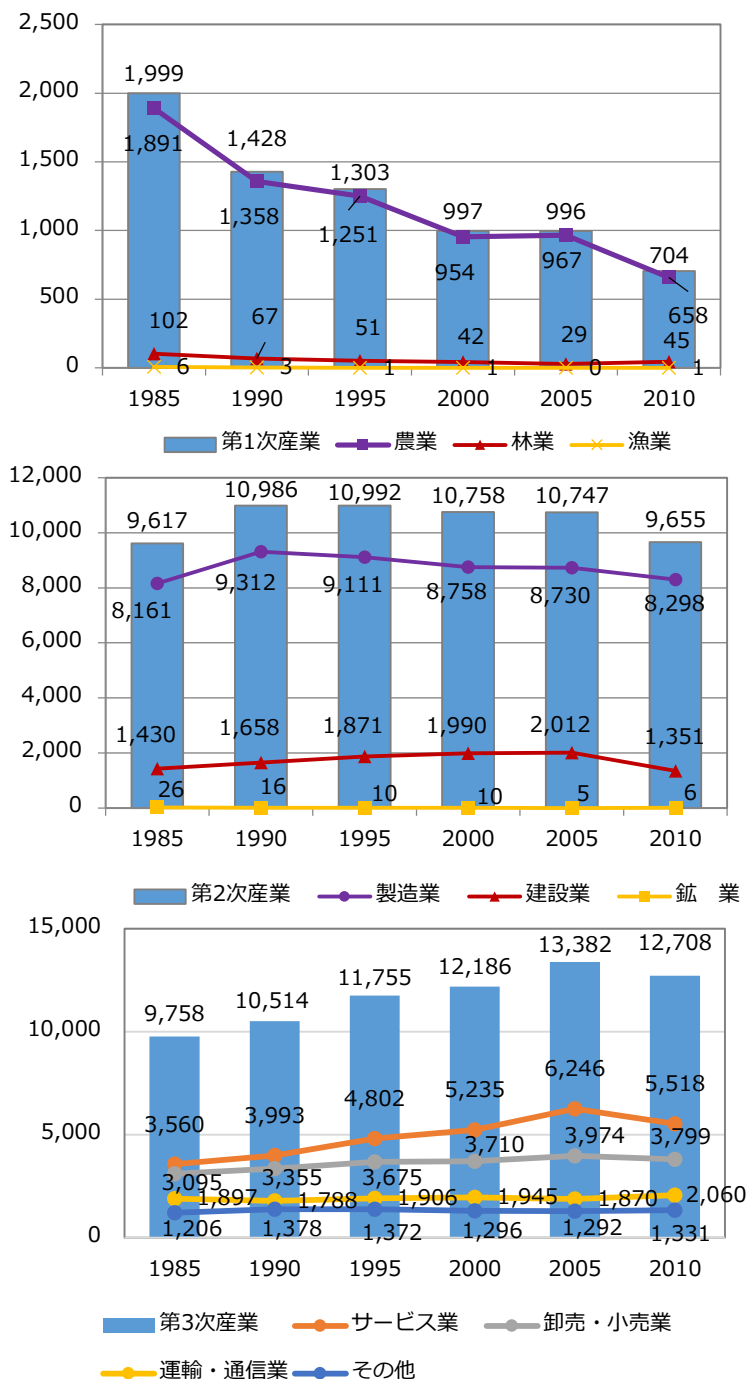
【図 I-10 産業別就業者数】



出典：国勢調査

- ◇総就業者数は 2005 年までは増加していましたが、2010 年には減少しています。
- ◇第 3 次産業も同様に 2005 年までは増加していますが、2010 年に減少しています。
- ◇第 2 次産業の就業者数は 1990 年をピークに減少しています。第 1 次産業は 1985 年から減少し続けています。

○ 亀山市における 1985 年から 2010 年までの産業別の就業者数の内訳が次のグラフです。
 【図 I-11 産業別就業者数内訳】



出典：国勢調査

◇第1次産業は、農業が大半を占めており、大きく減少し続けています。
 ◇第2次産業は、製造業が大半を占めており、1990年をピークに減少をしています。
 建設業は2005年まで増加していましたが、2010年に大きく減少しています。
 ◇第3次産業は、サービス業、卸売・小売業の順に比率が高くなっており、いずれも
 2005年まで増加していましたが、2010年には減少しています。

(8) 昼夜間人口比率 (2010年)

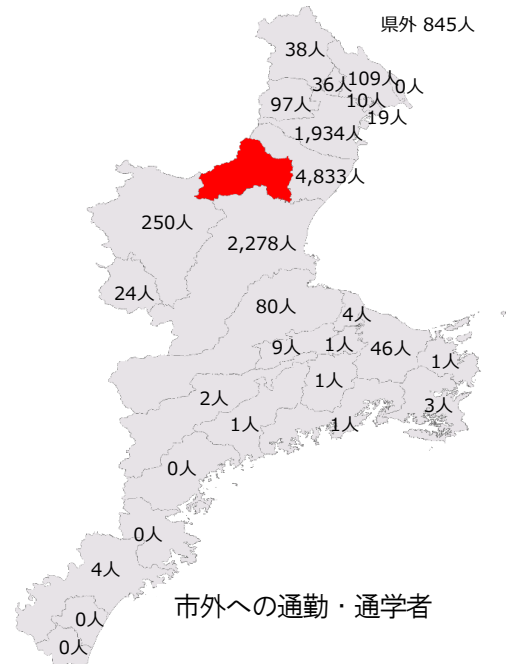
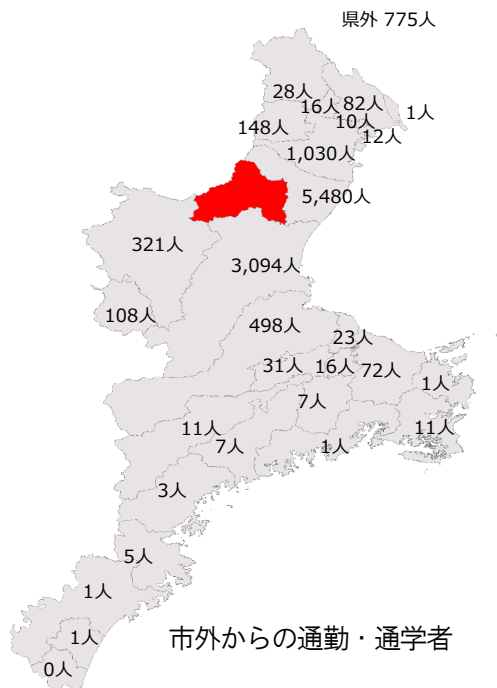
○ 次の図及び地図は、亀山市における昼夜間人口比率、亀山市から他市町への通勤通学人数及び他市町から亀山市への通勤通学人数を示しています。

【図 I-12 昼夜間人口比率及び通勤通学元・通勤通学先】

昼夜間比率: $52,191 \text{人(昼間)} \div 51,023 \text{人(夜間)} = 1.0229$
(三重県市町で10位)

昼間人口	
市外からの通勤・通学者	11,793人
市内在住の通勤・通学者	14,839人
非通勤・通学者	25,559人
合計	52,191人

夜間人口	
市外への通勤・通学者	10,625人
市内在住の通勤・通学者	14,839人
非通勤・通学者	25,559人
合計	51,023人



出典：国勢調査

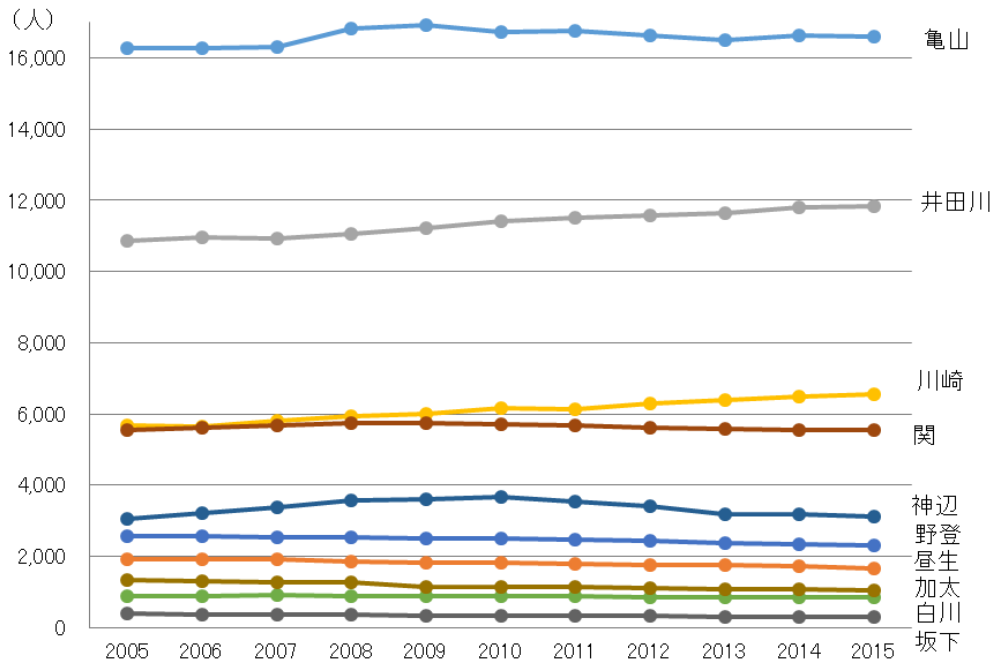
◇昼夜間人口の比率は1.0229であり、昼間人口の方が夜間人口よりも多くなっています。

◇亀山市へ通勤通学する人の住んでいる市町は、鈴鹿市が最も多く、次いで津市、四日市市が続きます。亀山市から通勤通学する市町も同様に、鈴鹿市、津市、四日市市の順になっています。

(9) 地区別人口の推移

○亀山市における 2005 年から 2015 年までの地区別の人口推移を見たのが次のグラフです。

【図 I-13 地区別人口の推移】



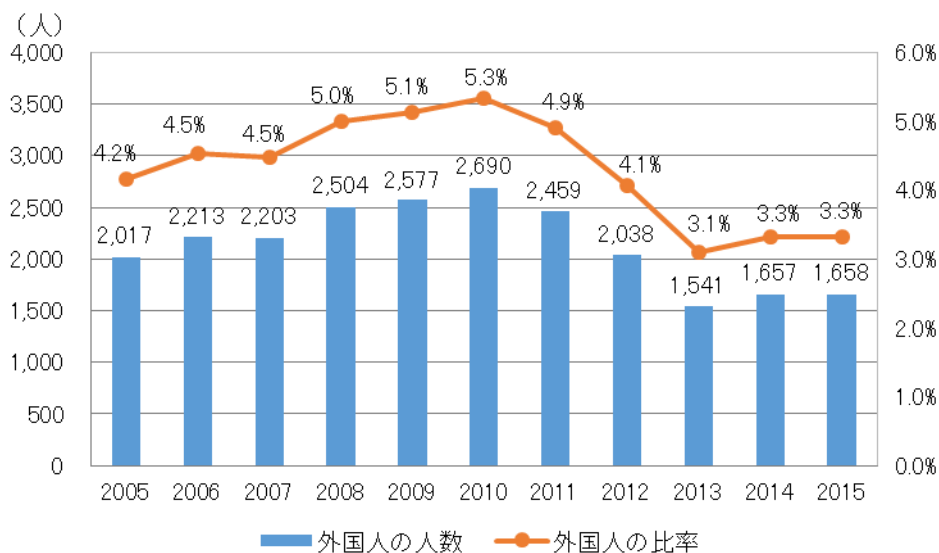
出典：住民基本台帳

- ◇2005 年から増加し続けている地区は川崎と井田川です。
- ◇神辺は 2010 年にかけて大きく増加しましたが、その後、概ね以前の水準まで減少しています。
- ◇亀山地区・関地区は 2008 年以降、微減となっています。
- ◇加太、昼生、白川、野登、坂下の各地区は概ね減少傾向にあります。

(10) 外国人人口の推移

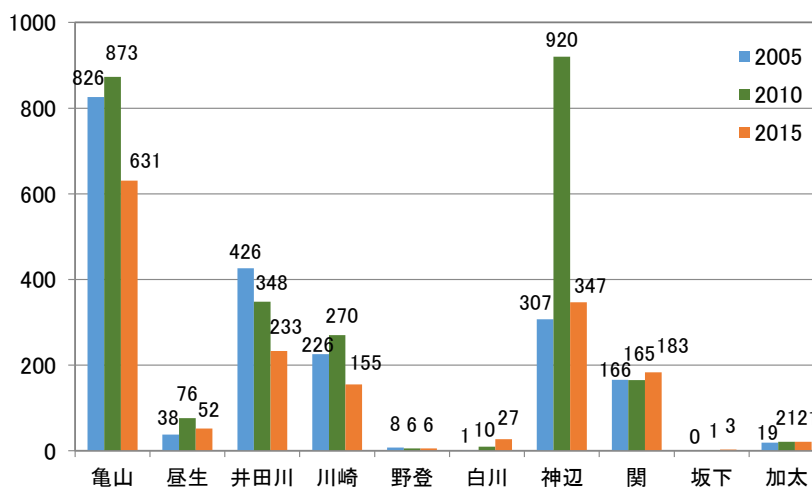
○ 亀山市における 2005 年から 2015 年までの外国人の人数と比率の推移を見たのが次のグラフです。下のグラフでは、地区毎の 2005 年、2010 年及び 2015 年の外国人人口を表しています。

【図 I-14 外国人の人数及び比率の推移（亀山市）】



出典：住民基本台帳

【図 I-15 2005 年、2010 年、2015 年における地区別外国人の人数（亀山市）】



出典：住民基本台帳

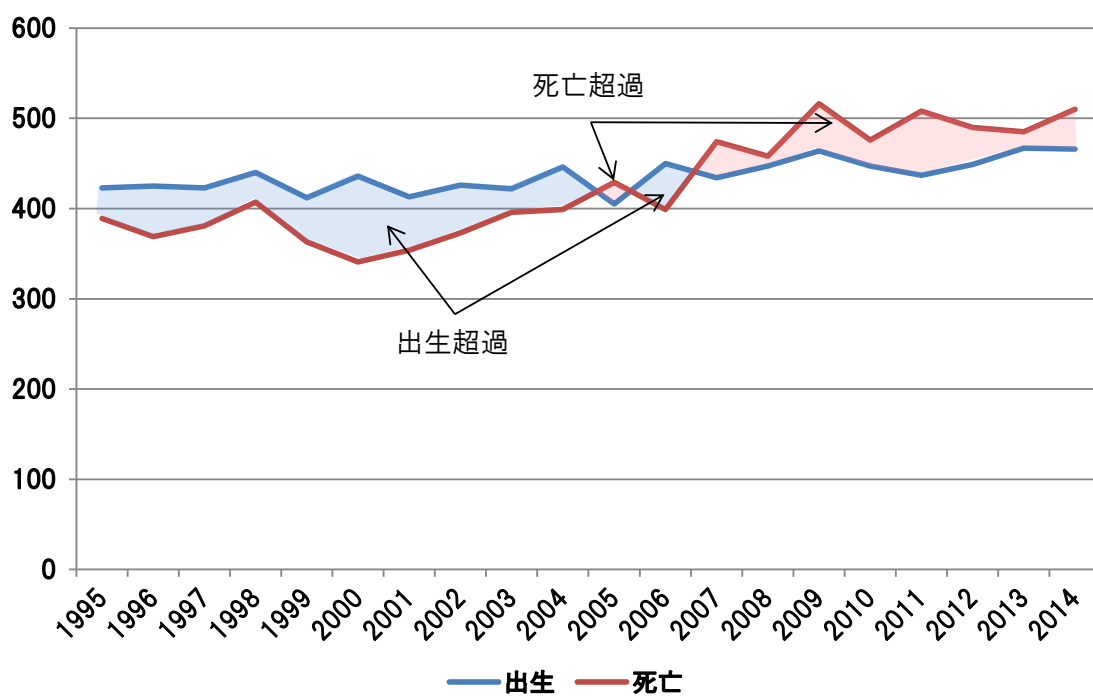
◇2005 年から 2010 年にかけて外国人は増加していましたが、その後急激に減少し、2013 年にはピーク時に 5.3%であった比率も 3.1%にまで減少しています。
 ◇地区別では、横ばい、若しくは減少傾向の地区が多くなっていますが、神辺地区は、2010 年に 2005 年の約 3 倍まで増加し、2015 年にはほぼ 2005 年に近い水準まで急減しています。

2 亀山市における人口の自然増減の要因分析

(1) 自然増減の推移

○1995年から2014年までの亀山市の出生数と死亡数を見たのが次のグラフです。

【図 I-16 出生数と死亡数の推移（亀山市）】



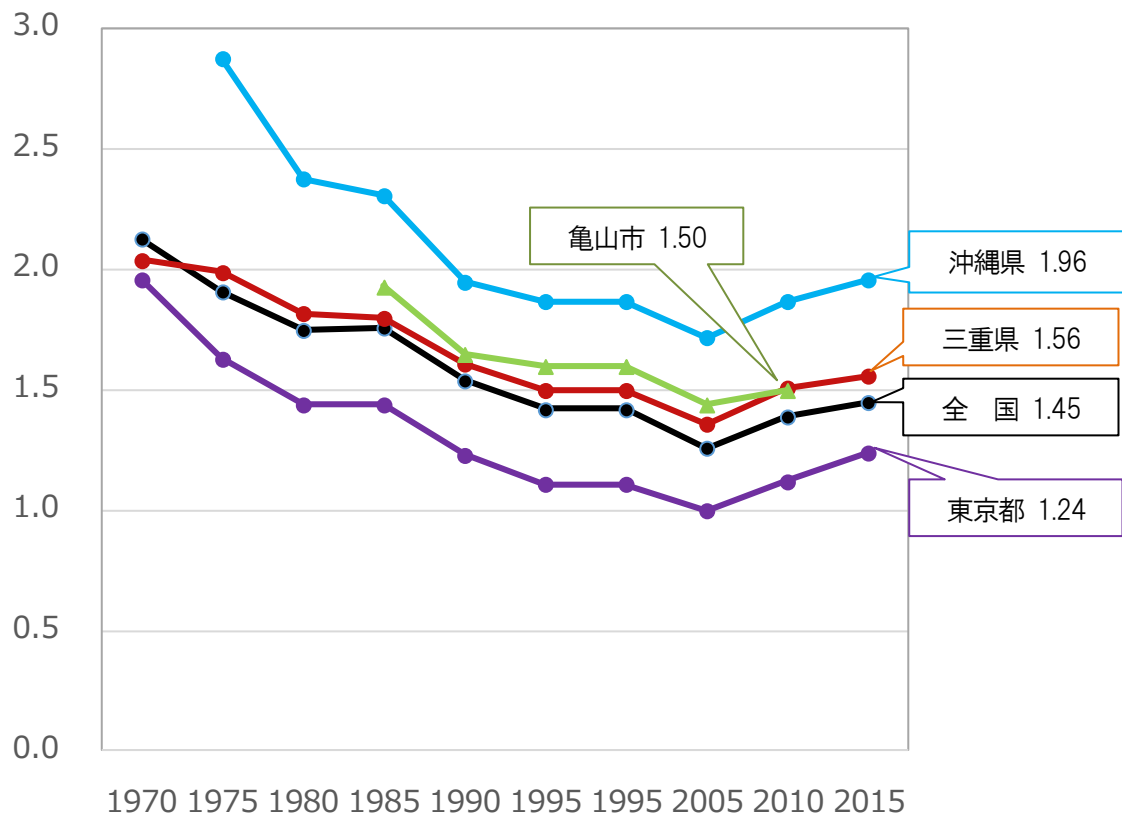
出典：住民基本台帳

◇2004年までは出生数が死亡数を上回っていましたが、2007年以降は死亡数が出生数を上回っています。

(2) 合計特殊出生率の推移と県内各市町との比較

○1970年から2015年までの合計特殊出生率の推移を見たのが次のグラフです。

【図 I-17 合計特殊出生率の推移】



注) 亀山市以外の合計特殊出生率は、厚生労働省「人口動態統計」からの引用であり、国勢調査の確定値人口からの算出ですが、亀山市は人口動態保健所・市区町村別統計からの引用であり、前後5年間のデータを取りまとめたもので、ベイス推定の手法を用いて算出しています。

◇1970年から2005年までは全国、3都県、亀山市のいずれも合計特殊出生率は低下していますが、2010年にはいずれも上昇に転じています。
 ◇亀山市はいずれの年も全国平均を上回り、三重県とは概ね同水準で推移しています。

○亀山市における合計特殊出生率を2003年から2007年の5年間と、2008年から2012年の5年間に分け、県内順位を見たのが次の表です。

【表 I -18 三重県内市町の合計特殊出生率】

合計特殊出生率（2003～2007年）

1	尾鷲市	1.55
2	熊野市	1.55
3	朝日町	1.54
4	玉城町	1.54
5	川越町	1.53
6	紀宝町	1.53
7	鈴鹿市	1.52
8	伊賀市	1.49
9	四日市市	1.46
10	大台町	1.46
11	御浜町	1.46
12	亀山市	1.44
13	紀北町	1.44
14	松阪市	1.43
15	明和町	1.42
16	鳥羽市	1.41
17	大紀町	1.41
18	南伊勢町	1.41
19	菰野町	1.40
20	津市	1.38
21	多気町	1.38
22	度会町	1.38
23	桑名市	1.37
24	いなべ市	1.37
25	伊勢市	1.36
26	志摩市	1.36
27	名張市	1.28
28	木曽岬町	1.26
29	東員町	1.22
-	三重県全体	1.42



合計特殊出生率（2008～2012年）

1	川越町	1.77
2	朝日町	1.72
3	紀宝町	1.68
4	鈴鹿市	1.6
5	尾鷲市	1.59
6	松阪市	1.58
7	御浜町	1.57
8	菰野町	1.56
9	玉城町	1.56
10	大台町	1.55
11	伊賀市	1.54
12	四日市市	1.53
13	亀山市	1.50
14	明和町	1.50
15	紀北町	1.50
16	熊野市	1.50
17	いなべ市	1.48
18	津市	1.48
19	伊勢市	1.48
20	大紀町	1.48
21	南伊勢町	1.48
22	桑名市	1.47
23	度会町	1.47
24	多気町	1.43
25	志摩市	1.43
26	名張市	1.42
27	鳥羽市	1.41
28	木曽岬町	1.34
29	東員町	1.34
-	三重県全体	1.51

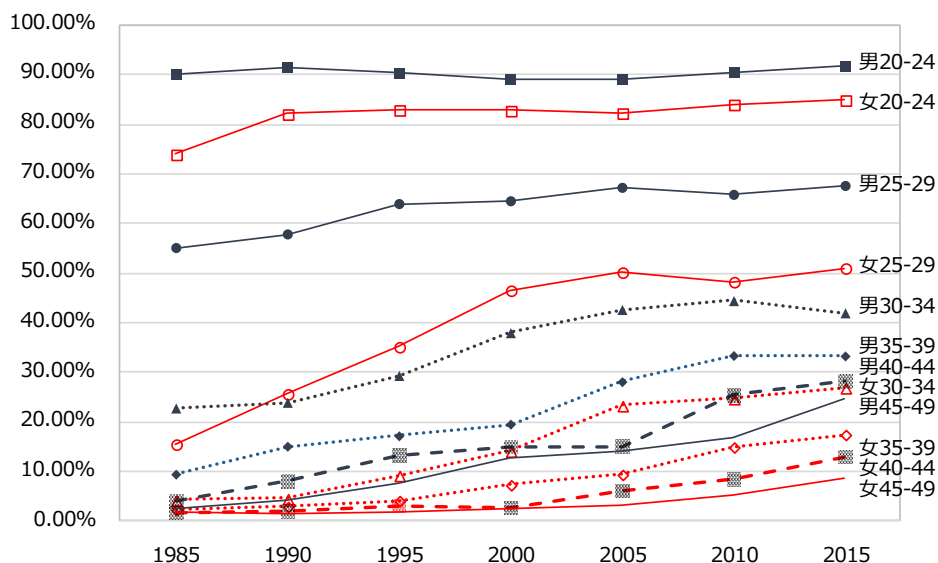
出典：厚生労働省「人口動態統計」

◇亀山市の合計特殊出生率は、2003～2007年は1.44で12位、2008～2012年は1.50で(0.06上昇)で13位と、三重県内の市町ではほぼ中位となっています。

(3) 未婚率の推移

○亀山市における1985年から2015年までの未婚率の推移を、男女別で20歳から49歳について、5歳刻みに見たのが次のグラフです。

【図 I-19 未婚率の推移（亀山市）】



出典：国勢調査

◇未婚率は男性の30～34歳及び35～39歳以外は上昇傾向にあり、特にこの10年間で見ると、男女とも35歳以降は上昇の勾配が急です。

○亀山市における2015年の未婚率の県内順位を見たのが次の表です。

【表 I-20 未婚率県内順位（亀山市）】

	男		女	
	未婚率	順位	未婚率	順位
15～19歳	99.6	21	99.1	25
20～24歳	91.8	27	85.0	27
25～29歳	67.7	22	51.1	24
30～34歳	42.0	22	26.9	24
35～39歳	33.3	14	17.5	25
40～44歳	28.2	13	13.0	24
45～49歳	24.7	11	8.7	28
50～54歳	17.0	18	5.7	24

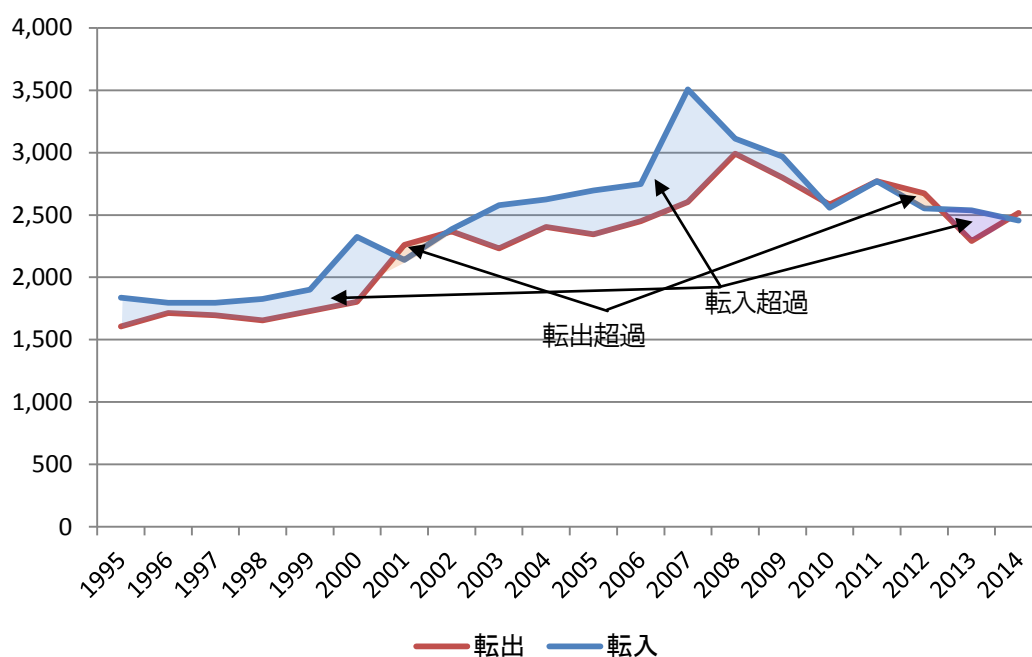
出典：国勢調査

3 亀山市における人口の社会増減の要因分析

(1) 社会増減の推移

○1995年から2014年までの亀山市の転出数と転入数を見たのが次のグラフです。

【図 I-21 転入・転出数の推移（亀山市）】



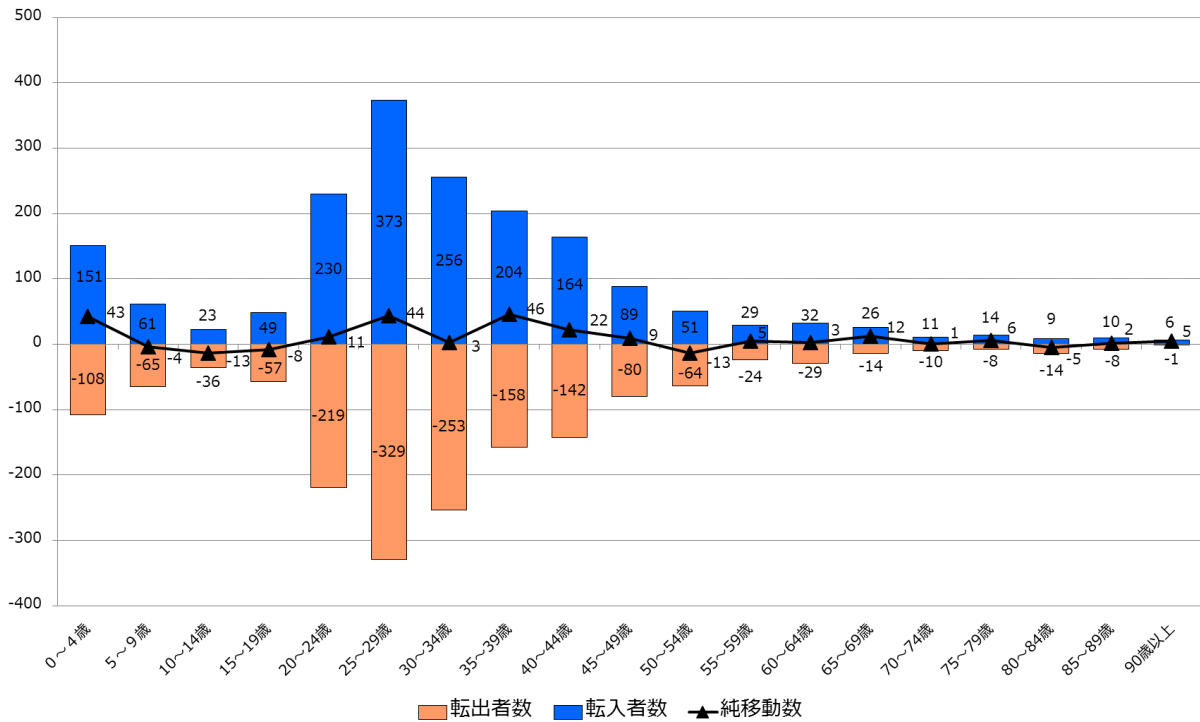
出典：住民基本台帳

◇1995年から2009年頃までは、2001年を除き、転入数が転出数を上回っていましたが、2010年以降は転入と転出が拮抗しています。

(2) 最近の年齢別人口移動の状況

○2013年の亀山市における人口移動（社会増減）の状況を5歳刻みの年齢別に見たのが次のグラフです。

【図 I -22 5歳刻みの年齢別に見た人口移動の状況（亀山市）】

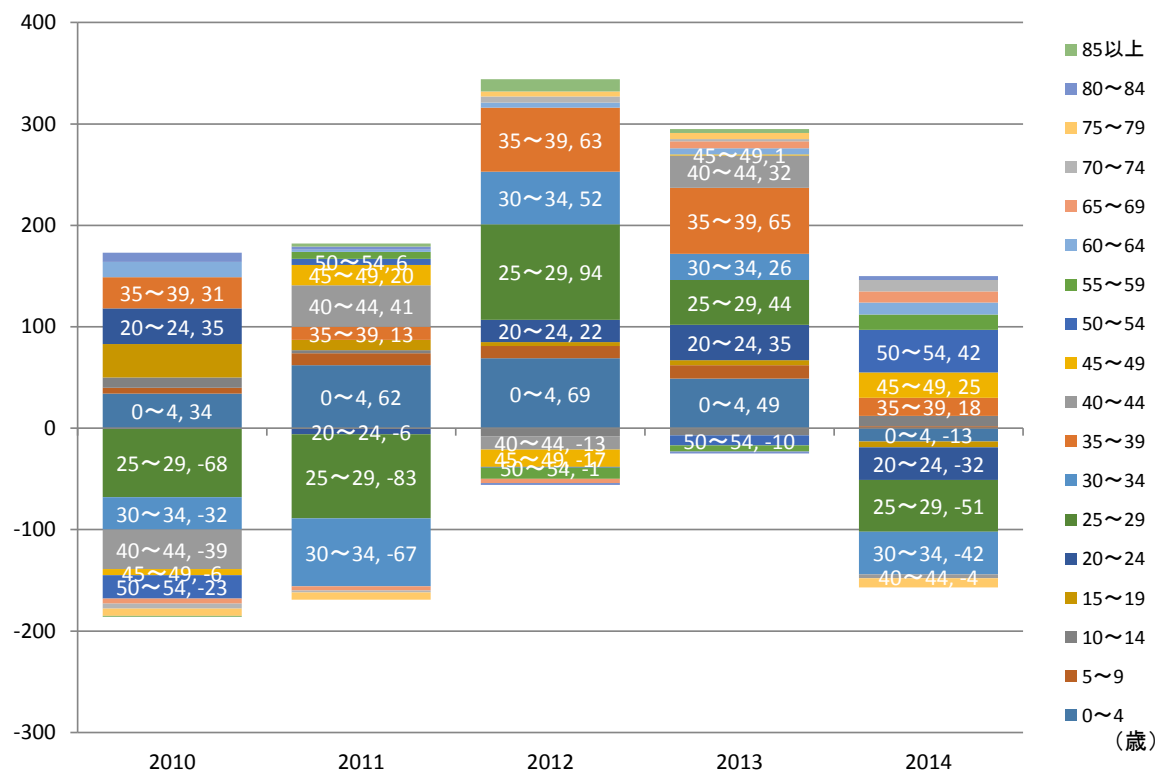


出典：総務省人口動態調査（2013）

◇年齢別の純移動数は、若い世代（5～19歳）は転出超過となっていますが、他の世代はほとんどが転入超過の傾向となっています。
 ◇転入数及び転出数ともに、20～44歳の世代の動きが大きくなっています。

○亀山市における 2010 年から 2014 年の人口移動について、年齢階級別に見たのが次のグラフです。原点 (0) から上が転入超過、下が転出超過となっています。

【図 I -23 年齢階級別の人口移動の状況（亀山市）】



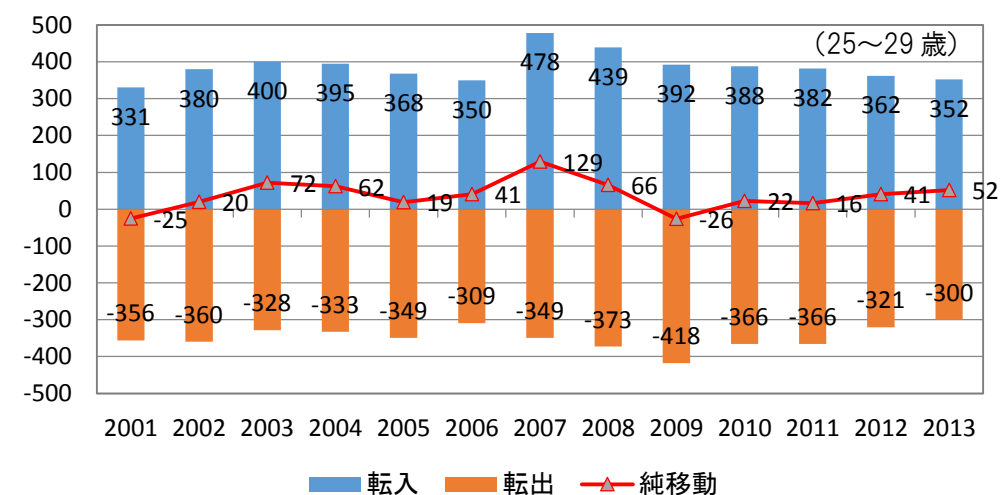
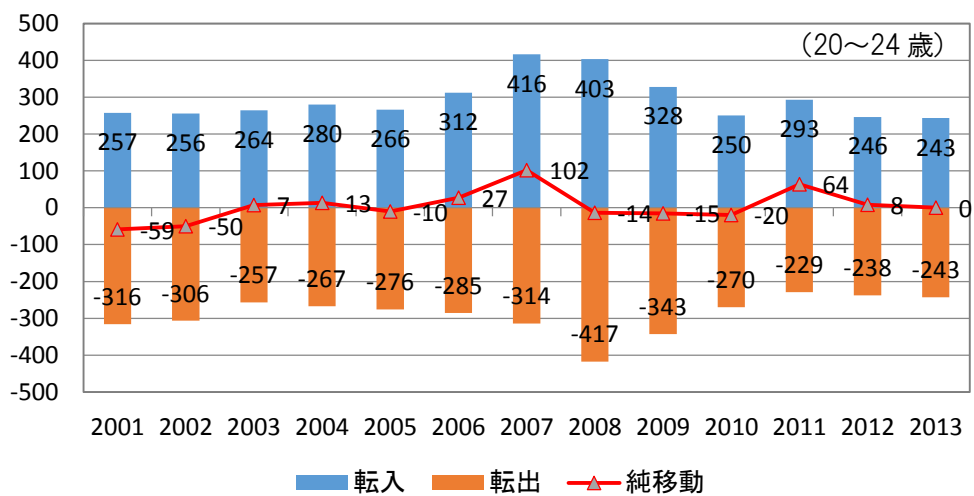
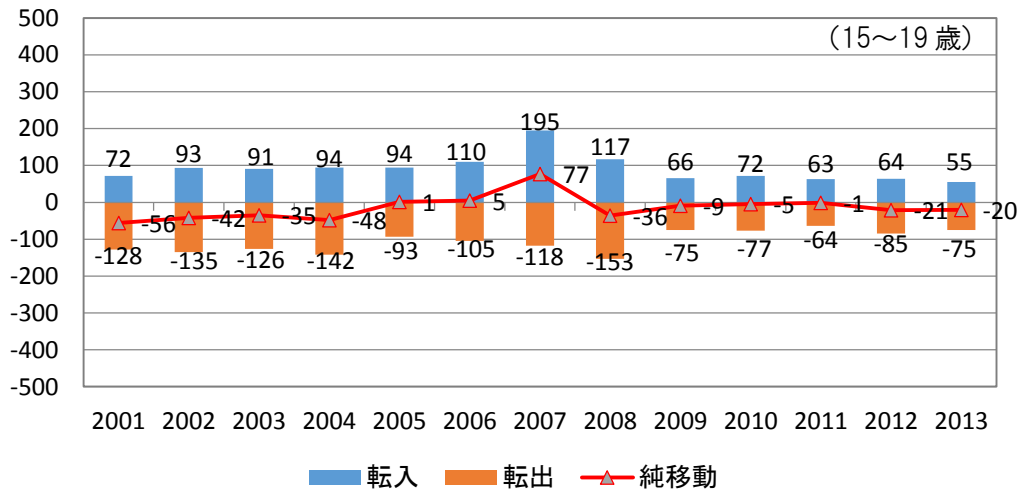
出典：住民基本台帳

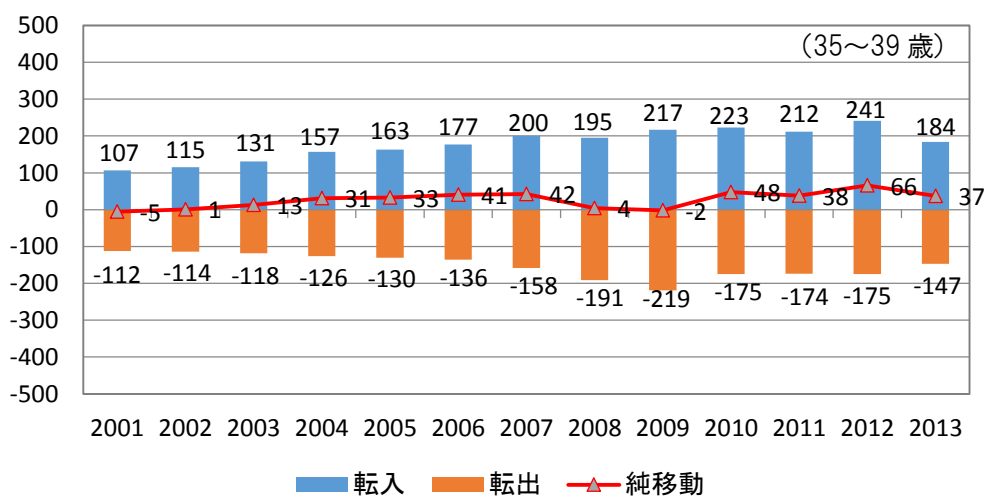
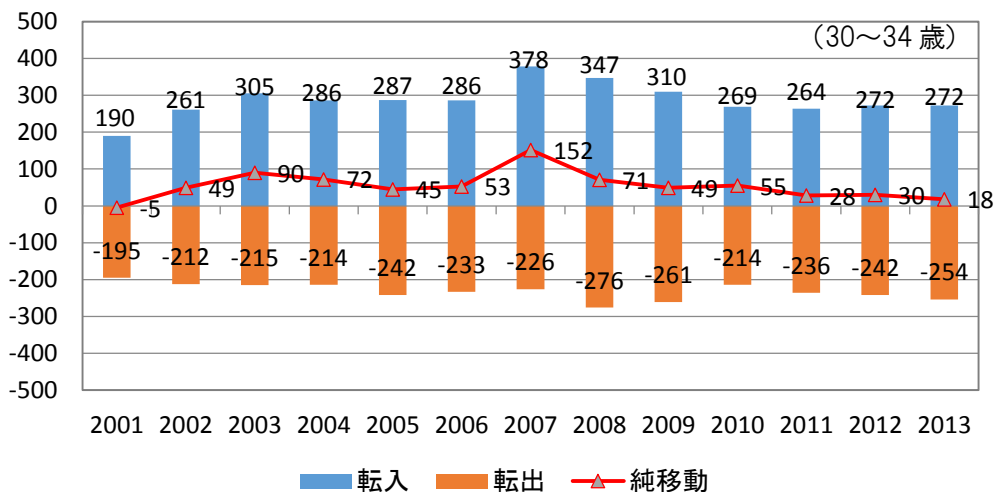
◇亀山市では、年度により転入超過の年と転出超過の年があり、転入数・転出数が多い 20~24 歳、25~29 歳の世代も年度により異なります。

(3) 年齢階級別人口移動の推移

○亀山市における2001年から2013年の年齢別人口移動(日本人)の推移を見たのが次のグラフです。

【図 I-24 年齢別人口移動(日本人)の推移(亀山市)】





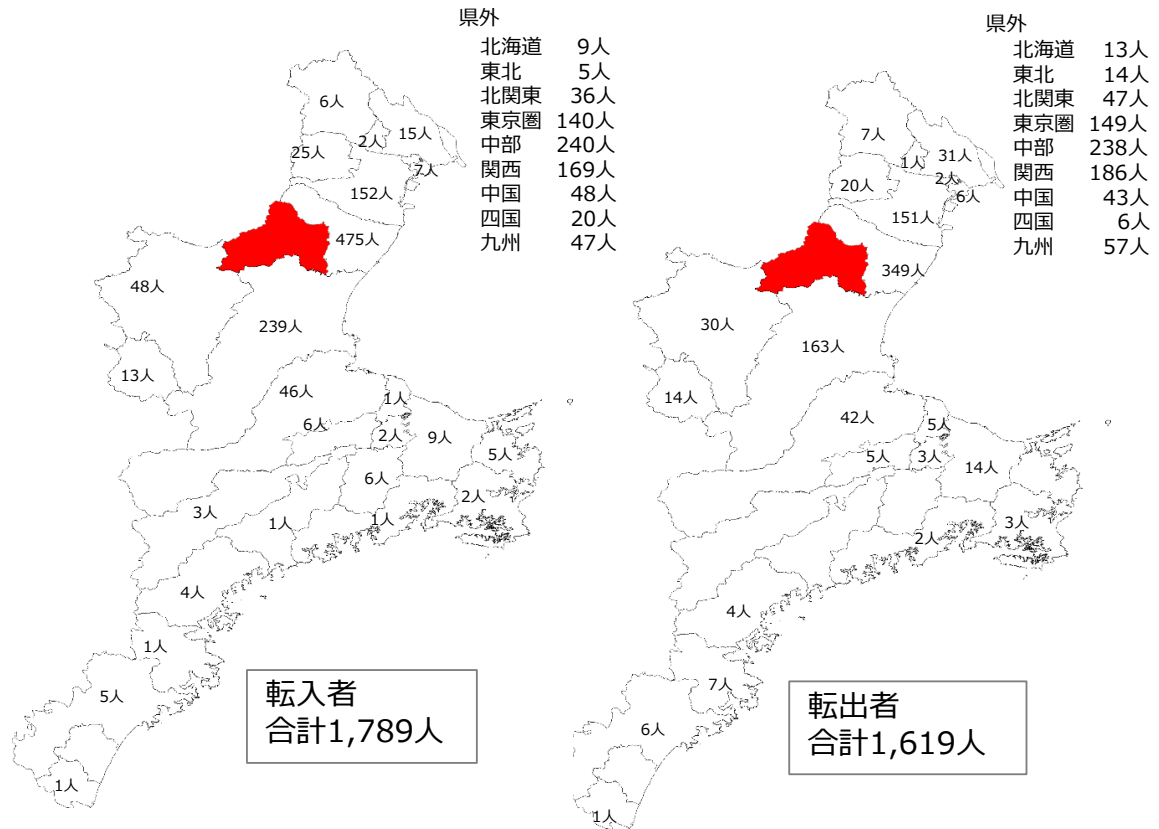
出典：住民基本台帳

- ◇15～24 歳の世代は、一部の年度を除き、転出超過の傾向が見られます。
 ◇25～39 歳の世代は概ね転入超過で推移しています。25～34 歳の世代では、2007 年が転入超過のピークになっています。

(4) 亀山市と他の県内自治体間の人口移動の状況

○亀山市と県内自治体間の人口移動の状況を地図に示したものが次の図です。

【図 I -25 亀山市と県内自治体間の人口移動の状況】



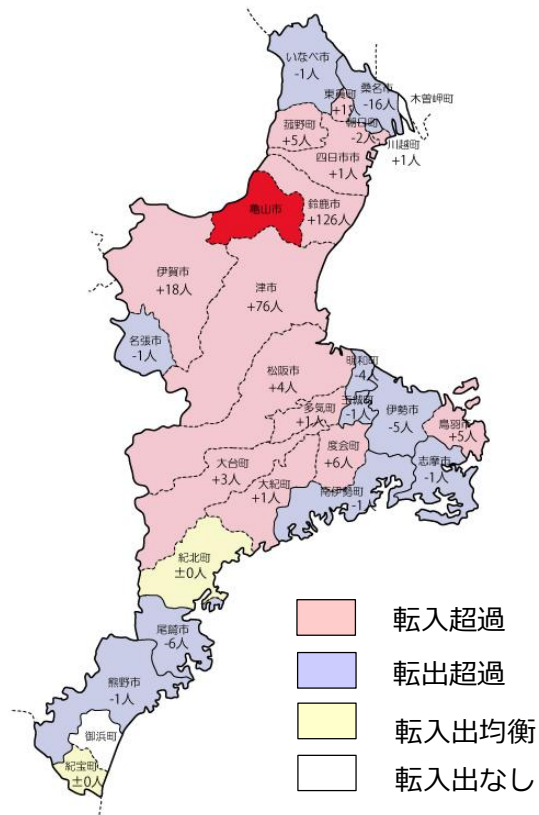
転入元の地域(2013)

転出先の地域(2013)

出典：総務省人口移動報告

※県外の地域ブロック区分は下記のとおり。

- 東 北：青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
- 北関東：茨城、栃木、群馬
- 東京圏：埼玉、千葉、東京、神奈川
- 中 部：新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
- 関 西：滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
- 中 国：鳥取、島根、岡山、広島、山口
- 四 国：徳島、香川、愛媛、高知
- 九 州：福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄



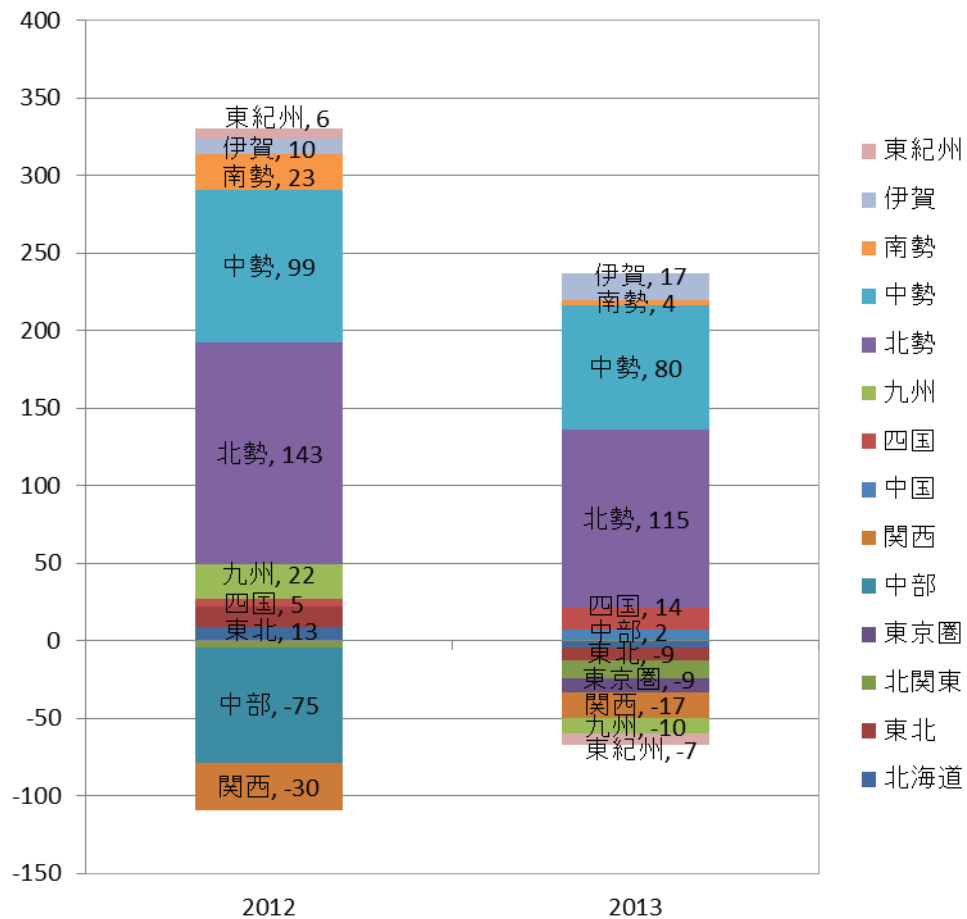
純移動数（2013）

出典：総務省人口移動報告

- ◇純移動数・転入数・転出数いずれも、県内での移動が県外との移動よりも大きくなっています。
- ◇県内では、転入元・転出先ともに、近隣市が多く、鈴鹿市、津市、四日市市の順になっています。
- ◇県外では、東京・大阪・名古屋の3大都市圏を含む、中部・関西・東京圏との移動が大きくなっています。

○地域ブロック、県内圏域別の人口純移動数のグラフです。

【図 I -26 地域ブロック、県内圏域別の人口移動の状況（亀山市）】



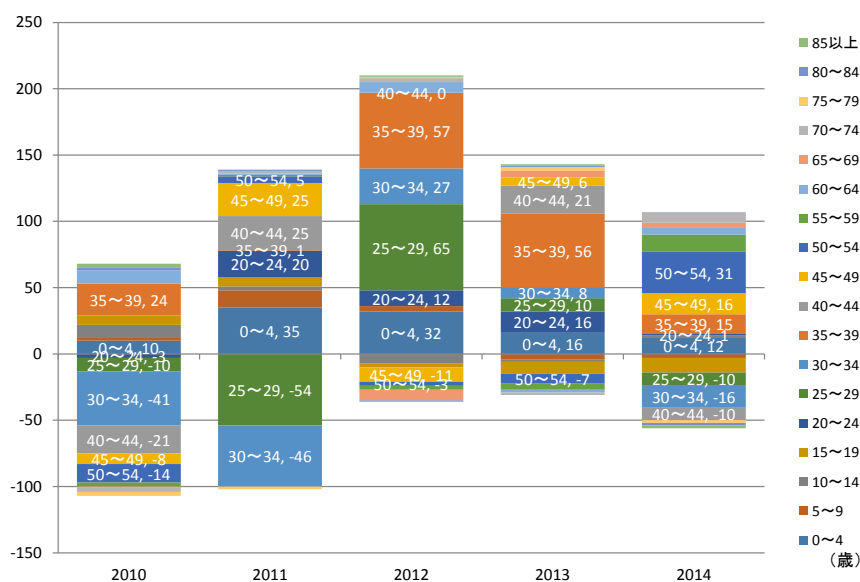
出典：総務省人口移動報告

◇県内での移動は転入超過、県外との移動は転出超過の傾向となっています。
 ◇県内では、北勢地域からの転入超過が多くなっており、県外では、中部圏、関西圏への転出超過の傾向があります。

(5) 性別・年齢階級別の人口移動の状況

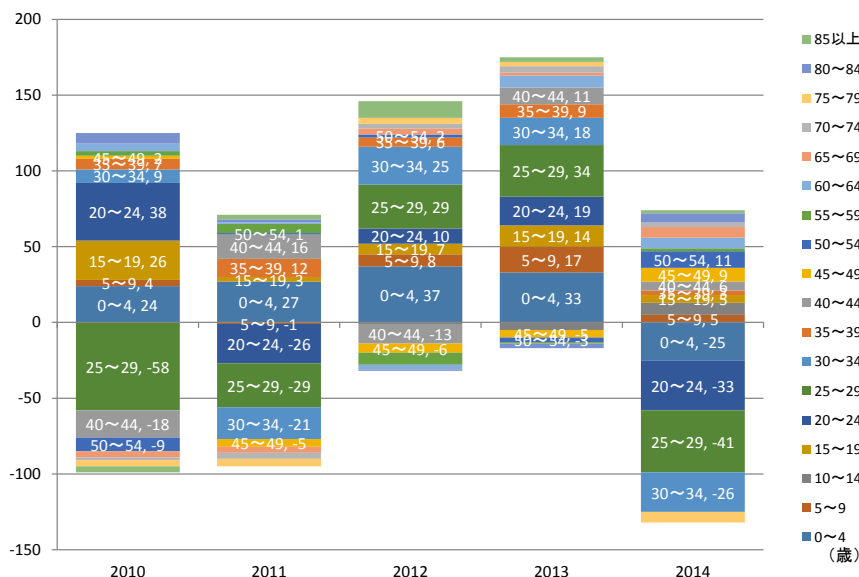
○2010年から2014年までの男女別年齢階級別の推移は次のグラフのとおりとなっています。

【図 I -27 年齢階級別の人口移動の推移（亀山市男性）】



出典：住民基本台帳

【図 I -28 年齢階級別の人口移動の推移（亀山市女性）】



出典：住民基本台帳

◇男女別、年齢階級別に純移動の推移を見ると、2012年、2013年は男女とも転入超過の世代が多くなっています。
 ◇2010年は女性が転入超過である世代が多く、2011年は男性が転入超過である世代が多くなっています。

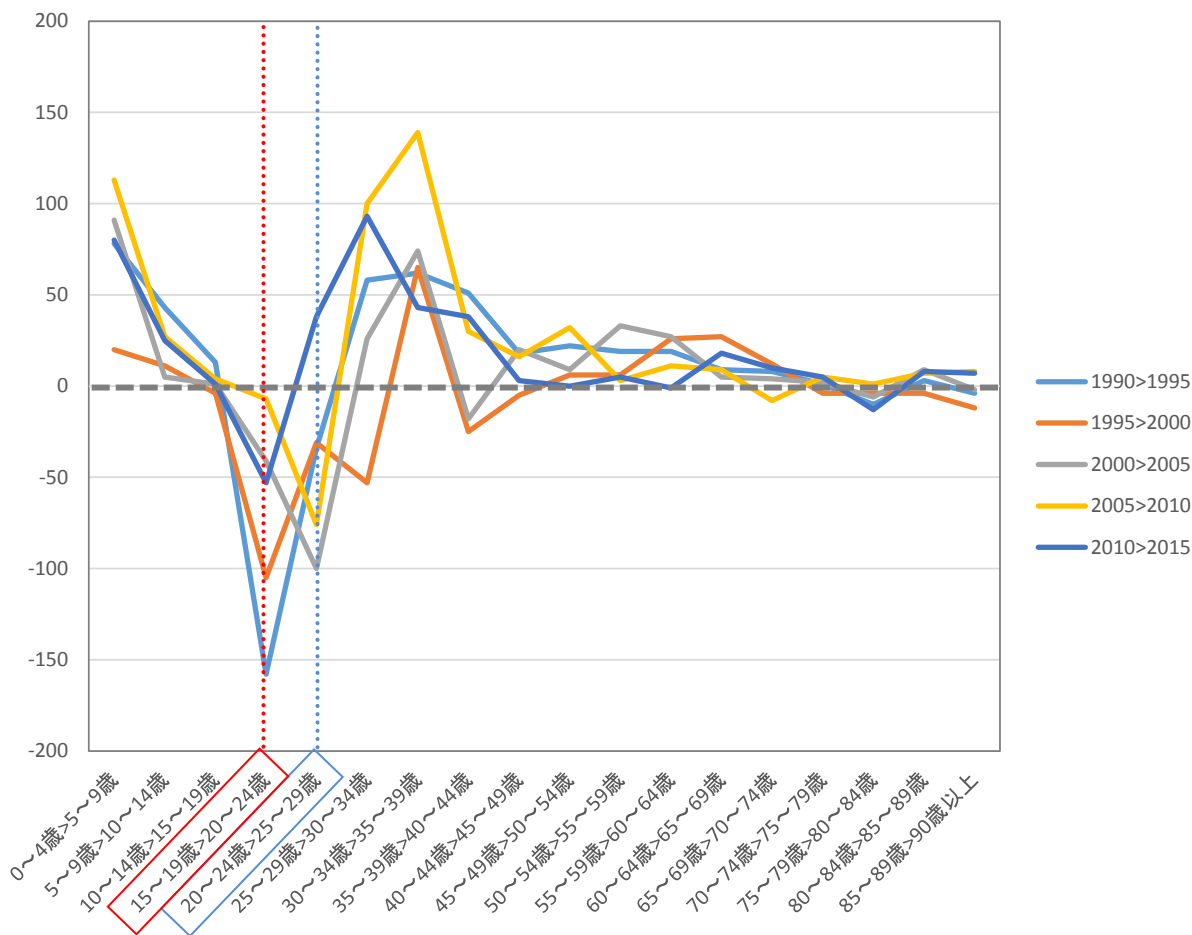
○1990>1995年から2010>2015年までの、5年間の人口移動状況の推移は次のグラフのとおり
 となっています。

【図 I -29 年齢階級別 5年間の人口移動の推移（亀山市男性）】



出典：住民基本台帳

【図 I -30 年齢階級別 5 年間の人口移動の推移（亀山市女性）】



出典：住民基本台帳

◇男女別ともに、進学・就職の時期となる「15～19歳>20～24歳」での移動は、大きな転出超過の傾向がありますが、男性の2005>2010年は転入超過、2010>2015年は転出超過ではあるものの、以前ほど大きな減少とはなっていません。

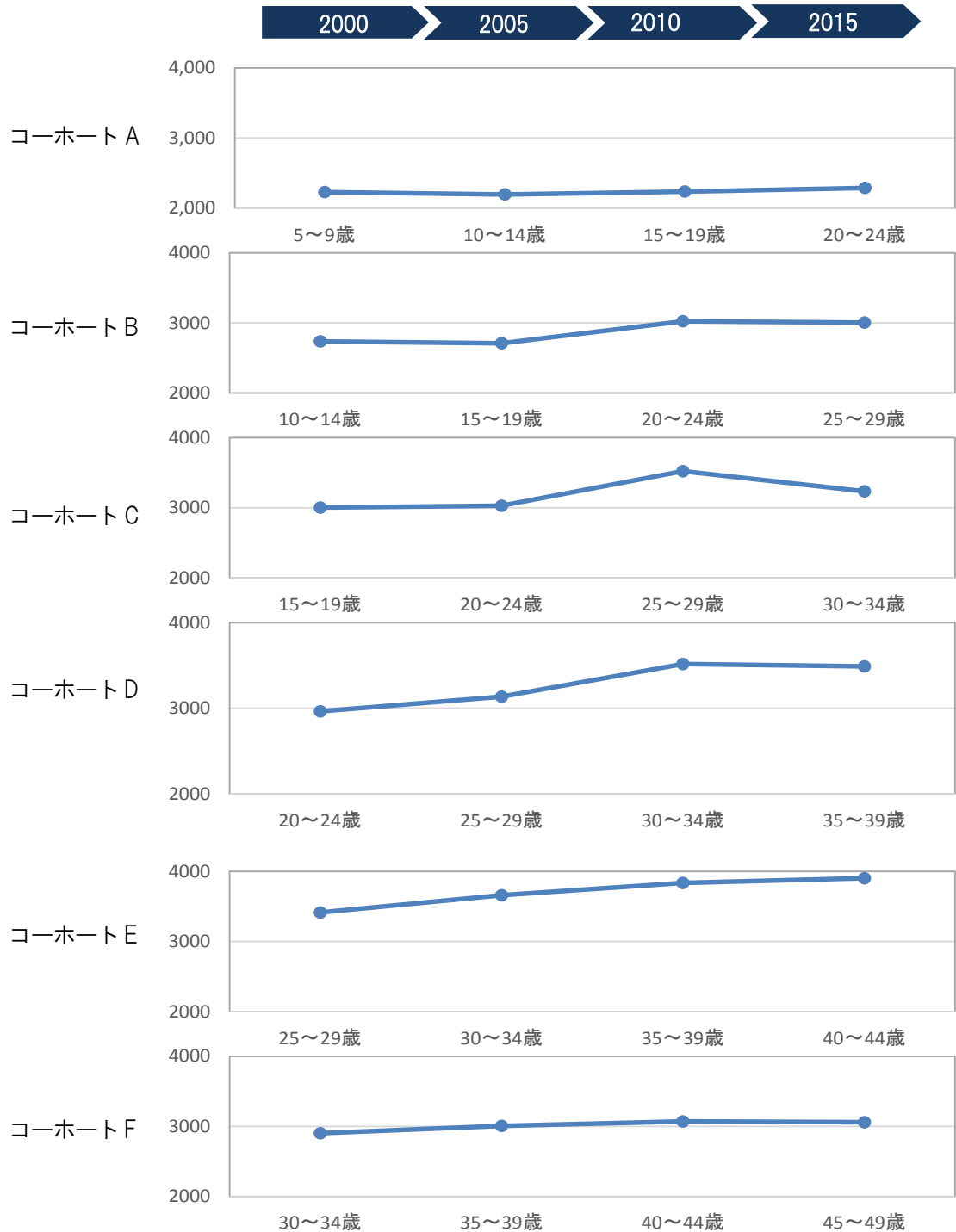
◇男性の「20～24歳>25～29歳」から「35～39歳>40～44歳」までについては、大きな転入超過の傾向が見られ、他の世代も概ね転入超過の傾向が見られます。

◇女性の「20～24歳→25～29歳」は、転出超過で推移していましたが、2010>2015年は転入超過になっています。

(6) 液晶関連企業立地による人口への影響の検証

○5歳刻みのコーホート毎の、2000～2015年の人口の推移を表したものが次のグラフです。

【図 I -31 年齢階級別コーホート分析（亀山市）】

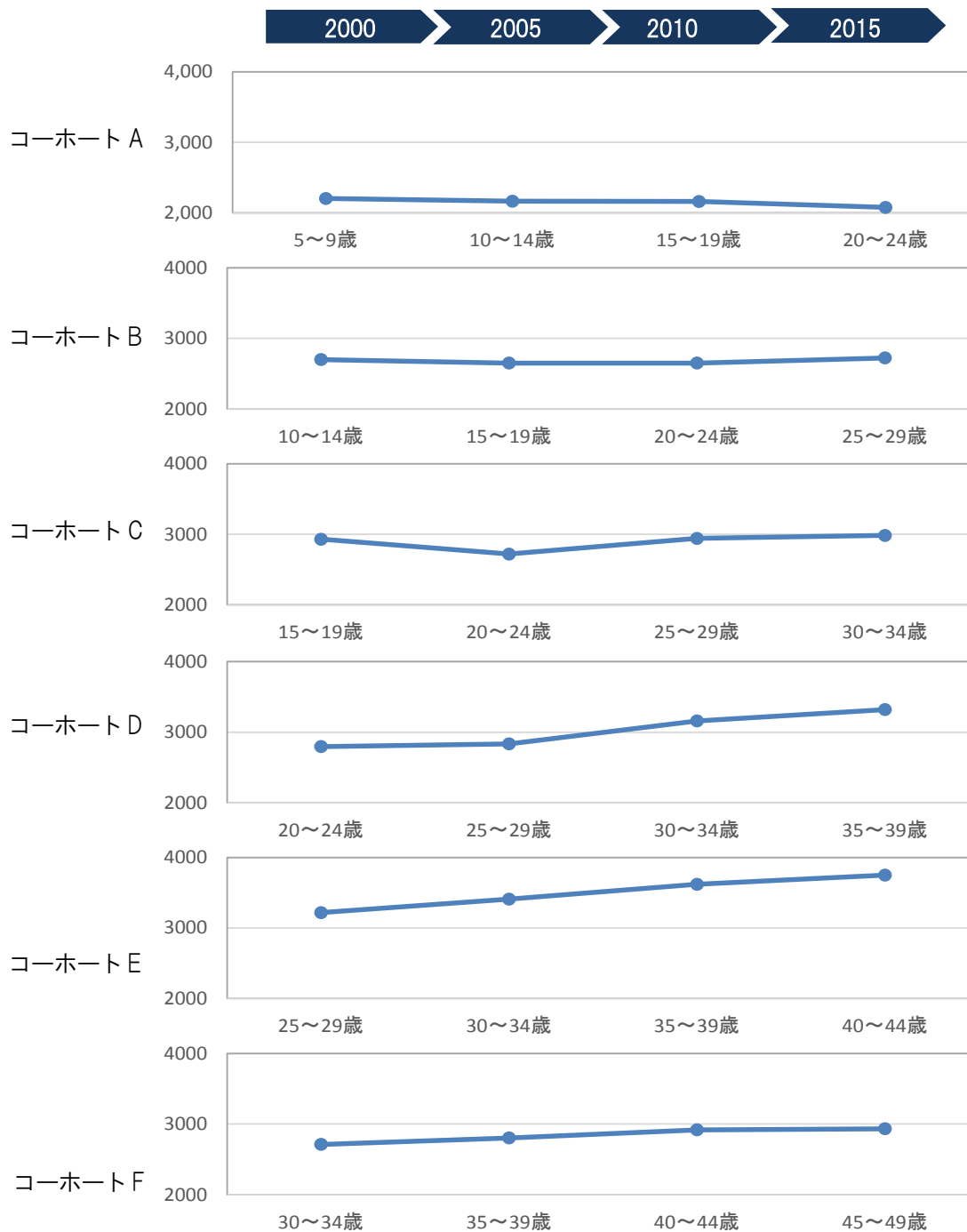


出典：住民基本台帳

◇全体のコーホートB～Eの人数（2005年で15～34歳の世代）が2005年から2010年の間に大きく増加しており、この世代の人口増加に液晶関連企業の立地が寄与していると考えられます。

○次に日本人のみの5歳刻みコーホート毎の、2000～2015年の人口の推移を表したものが次のグラフです。

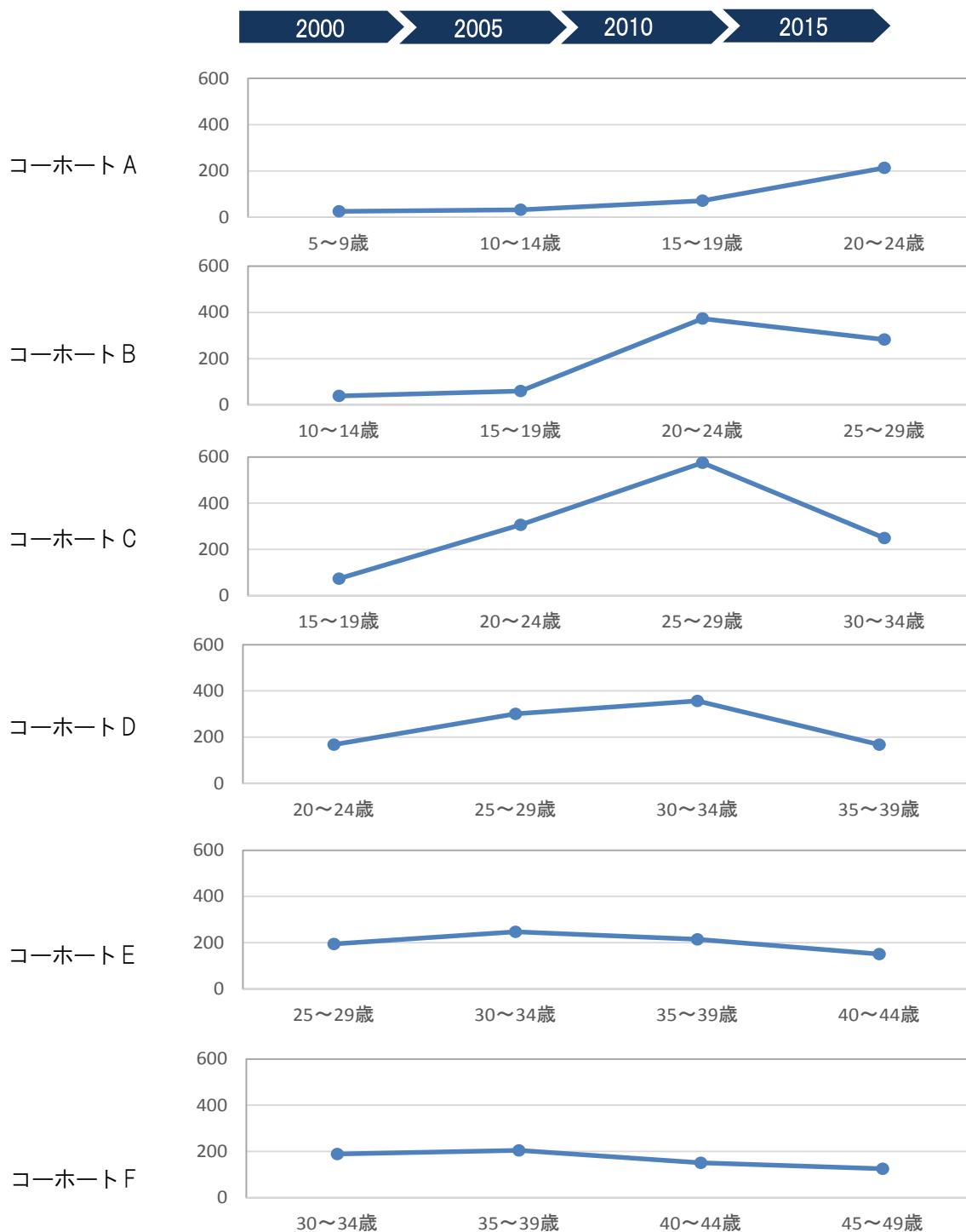
【図I-32 年齢階級別コーホート分析（日本人）（亀山市）】



◇日本人については、コーホートC～Eの人数（2005年で20～34歳の世代）が2005年から2010年の間に増加していますが、全体に比べると増加の割合が低くなっています。

○次に外国人のみの5歳刻みコーホート毎の、2000～2015年の人口の推移を表したものが次のグラフです。

【図 I -33 年齢階級別コーホート分析（外国人）（亀山市）】



◇外国人については、コーホートB～Dの人数（2005年で15～29歳の世代）が2005年から2010年の間に増加しており、コーホートC、Dは2000年から2005年も増加しています。また、コーホートB～Dは2010年から2015年にかけて急激に減少しています。

4 亀山市の将来人口

(1) 亀山市の将来人口の推計

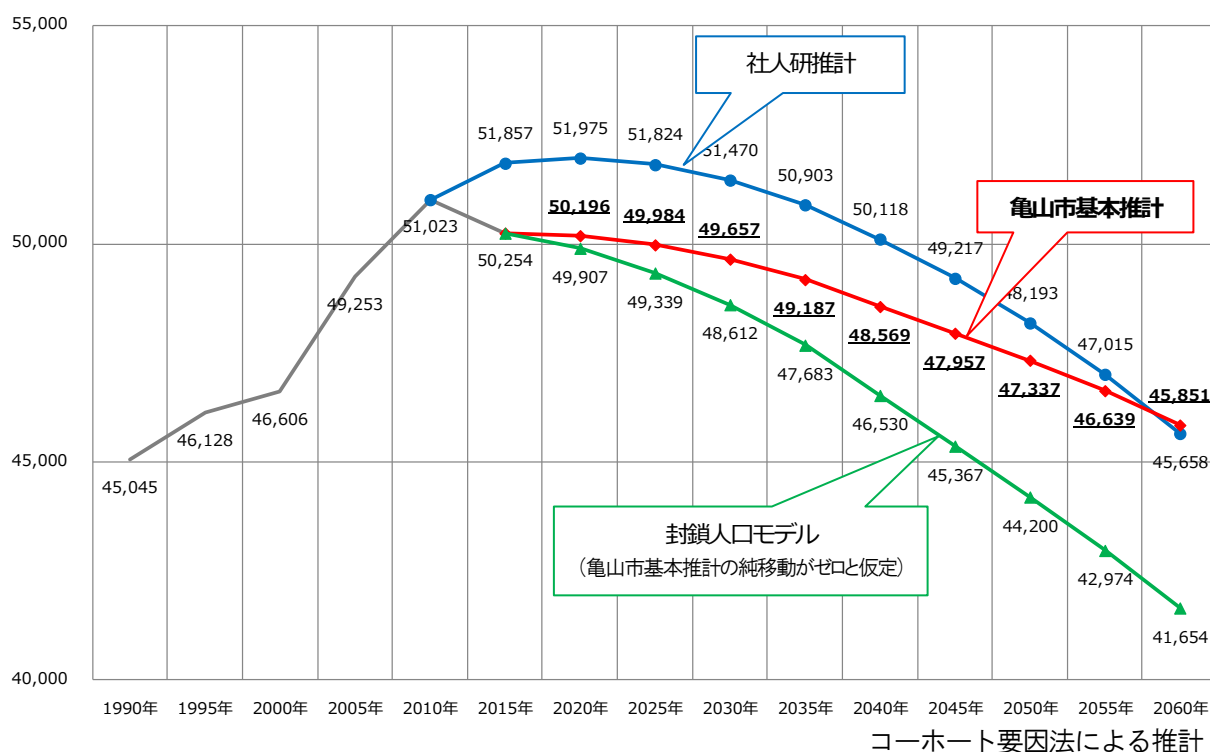
○直近の国勢調査である亀山市の将来人口について、2010 年国勢調査人口を起点にした社人研推計と、2015 年国勢調査人口を起点にした亀山市の基本推計及び封鎖人口による推計を表しています。

社人研推計：2010 国調人口を起点に、2005 国調人口との差を今後の推計の基準として算定

亀山市基本推計：2015 国調人口を起点に、2014 年までの住民基本台帳人口の推移と社人研推計の乖離を調整するため、純移動数の増加が突出していた 2005 年～2010 年を除いた期間の変動状況を基準に算定

亀山市推計(封鎖人口)：亀山市基本推計において、純移動数をゼロと仮定して算定

【図 I-34 コーホート要因法による人口推計（亀山市）】



◇社人研推計は、2020 年まで人口が増加し、それ以降減少に転じているのに対して、亀山市基本推計の減少カーブは社人研推計よりもゆるやかになります。2040 年には 2015 年よりも約 1,700 人減の 48,569 人、2060 年には約 4,400 人減の 45,851 人になると推計されています。

◇亀山市基本推計における純移動をゼロと仮定する封鎖人口モデルで再計算すると、2060 年で亀山市基本推計よりも約 4,000 人少ない 41,654 人と推計されます。

(参考・亀山市基本推計の考え方)

社人研による将来人口の推計については、2005年及び2010年の国勢調査数値を基礎として算定されていることから、2015年、2020年と、人口増加傾向となっています。

一方、直近の状況として、本市の住民基本台帳人口を見ると、2005年と2015年の比較では増加しているものの、途中の2010年がピークであり、その後は微減となっています。

本市においては、2005年から2010年にかけては、液晶関連企業の立地などから大きな人口増となった期間であり、特異な期間であったと考えられます。

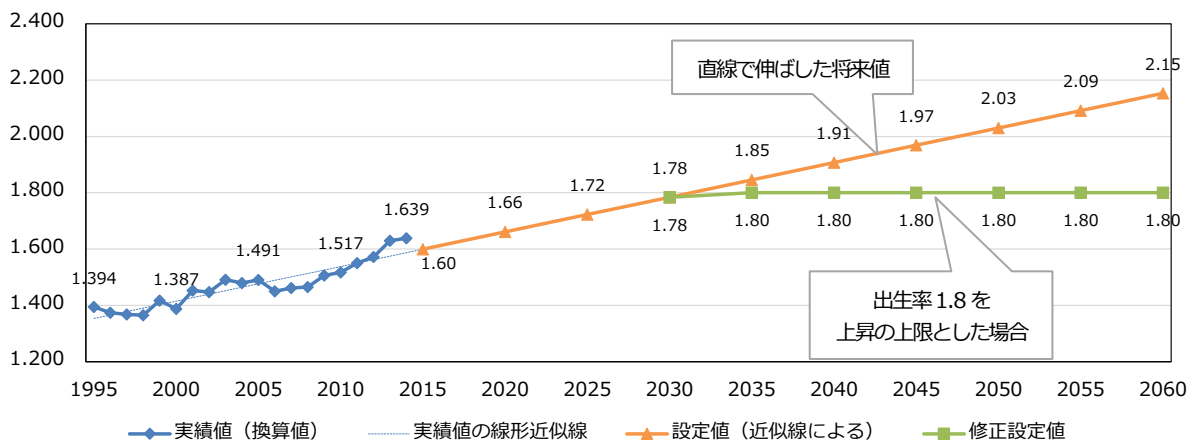
そうしたことから、この間の移動状況等を基に算定した社人研推計のほかに、市の状況を踏まえた基本推計を算定することとしました。

亀山市基本推計においては、次の考え方により設定した、合計特殊出生率及び純移動率を用いたコーホート要因法により、将来人口の推計を算定することとします。

(合計特殊出生率)

本市の1995年から2014年における本市の合計特殊出生率は上昇傾向にあり、今後もその傾向が維持するものとして算定します。ただし、上昇の上限は国の当面の目標となっている1.8とします。

【図 I -35 合計特殊出生率の設定】



(純移動率)

本市の1995年から2014年における本市の転入転出の状況から、液晶関連企業の立地などによる特異な期間となった2005年から2009年間の大幅な転入超過期間を除き、15年間の純移動率の平均を用いて算定します。

【図 I -36 純移動率の設定】

男性の純移動率	1995	2000	2005	2010	社人研 設定値	2005->2009を 除いた平均値
	->1999	->2004	->2009	->2014		
0~4歳->5~9歳	0.00	0.02	0.05	0.04	0.03	0.0260
5~9歳->10~14歳	0.01	△0.02	0.01	△0.01	0.01	△0.0015
10~14歳->15~19歳	△0.02	△0.02	0.01	△0.01	△0.02	△0.0103
15~19歳->20~24歳	△0.03	△0.03	0.10	0.02	0.06	△0.0160
20~24歳->25~29歳	0.11	0.08	0.24	0.02	0.21	0.0687
25~29歳->30~34歳	0.09	0.10	0.16	△0.07	0.08	0.0395
30~34歳->35~39歳	0.04	0.06	0.07	△0.01	0.02	0.0318
35~39歳->40~44歳	0.03	0.04	0.03	0.03	0.02	0.0334
40~44歳->45~49歳	0.02	0.00	△0.01	0.02	△0.01	0.0080
45~49歳->50~54歳	△0.00	△0.00	0.01	0.01	0.01	0.0041
50~54歳->55~59歳	0.01	0.02	0.01	△0.01	△0.00	0.0087
55~59歳->60~64歳	△0.00	0.00	0.01	0.01	△0.01	0.0042
60~64歳->65~69歳	△0.02	0.01	0.02	0.00	0.03	0.0030
65~69歳->70~74歳	△0.03	△0.01	0.00	△0.00	0.02	△0.0108
70~74歳->75~79歳	△0.04	△0.02	△0.01	0.00	△0.01	△0.0173
75~79歳->80~84歳	△0.09	△0.00	△0.04	△0.01	0.01	△0.0375
80~84歳->85~89歳	△0.08	△0.03	△0.08	△0.04	△0.02	△0.0554
85~89歳->90歳以上	△0.02	0.02	△0.02	△0.03	0.00	△0.0130
平均値	△0.00	0.01	0.03	△0.00		

↓
設定値

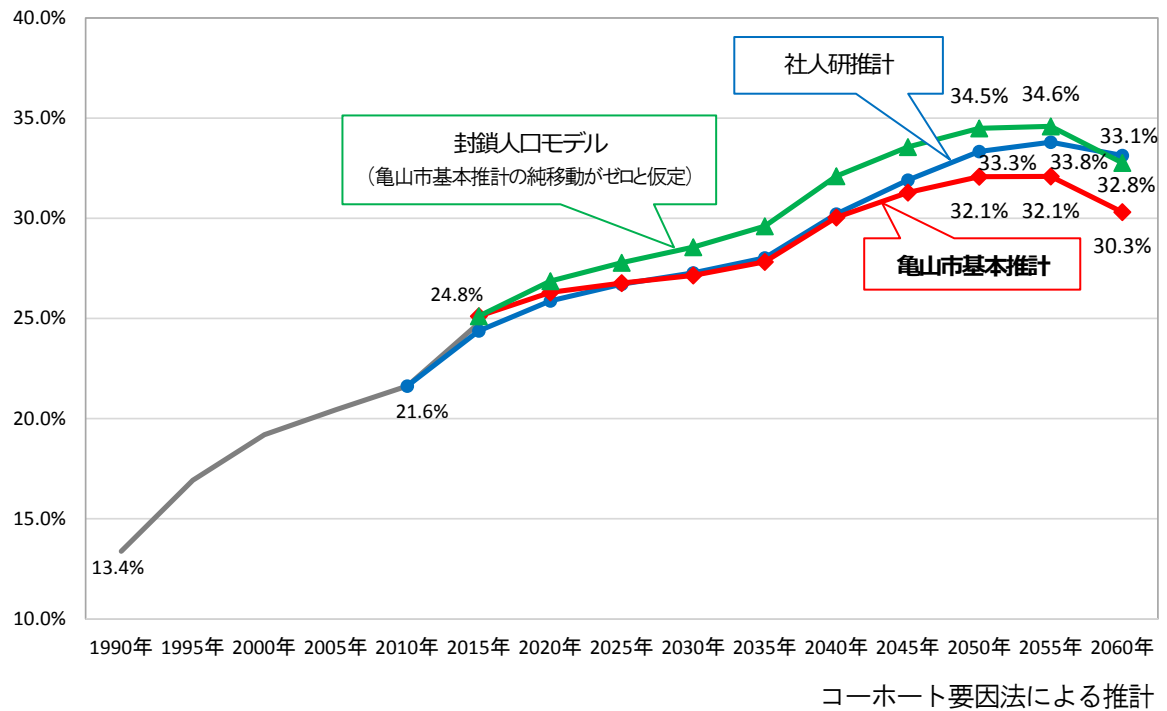
女性の純移動率	1995	2000	2005	2010	社人研 設定値	2005->2009を 除いた平均値
	->1999	->2004	->2009	->2014		
0~4歳->5~9歳	0.02	0.07	0.06	0.03	0.02	0.0472
5~9歳->10~14歳	0.00	△0.01	0.01	0.01	△0.02	0.0020
10~14歳->15~19歳	0.01	0.01	0.03	△0.02	△0.01	0.0057
15~19歳->20~24歳	△0.03	0.05	0.13	0.04	0.02	0.0214
20~24歳->25~29歳	0.02	0.04	0.09	△0.03	0.06	0.0112
25~29歳->30~34歳	0.07	0.05	0.08	△0.08	0.01	0.0129
30~34歳->35~39歳	0.03	0.02	0.03	△0.00	0.01	0.0150
35~39歳->40~44歳	0.01	△0.02	0.02	0.01	0.00	△0.0003
40~44歳->45~49歳	0.01	0.02	0.02	△0.01	0.01	0.0089
45~49歳->50~54歳	0.01	0.01	0.01	0.00	0.01	0.0077
50~54歳->55~59歳	0.01	0.01	0.01	△0.01	0.00	0.0044
55~59歳->60~64歳	0.02	0.02	0.00	△0.00	0.00	0.0086
60~64歳->65~69歳	0.00	△0.00	△0.00	0.01	0.01	0.0022
65~69歳->70~74歳	△0.01	△0.01	△0.01	0.01	△0.02	△0.0071
70~74歳->75~79歳	△0.02	△0.00	0.00	0.00	0.02	△0.0052
75~79歳->80~84歳	△0.05	△0.01	△0.02	△0.01	△0.01	△0.0208
80~84歳->85~89歳	△0.08	△0.02	△0.03	0.02	△0.01	△0.0274
85~89歳->90歳以上	△0.09	0.04	0.03	0.00	0.01	△0.0051
平均値	△0.00	0.01	0.03	△0.00		

↓
設定値

(2) 老年人口比率の変化（長期推計）

○亀山市における 2010 年から 2060 年までの老年人口比率の変化を見たのが次のグラフです。

【図 I -37 老年人口比率の長期推計（亀山市）】



◇老年人口比率は、今後も上昇し続け、社人研推計では 2055 年にピークを迎えますが、亀山市基本推計及び亀山市推計(封鎖人口)でも同時期にピークを迎え、その後減少に転じます。

◇亀山市基本推計に比べ、亀山市推計(封鎖人口)は、ピーク時の 2050 年の老年人口比率が 2.5 ポイント高い 34.6%まで上昇します。転入による若い世代の増加が高齢化の進展の抑止効果としてあらわれています。

5 人口減少及び人口構成の変化がもたらす課題

▽都市規模の最も基本的な要素となる総人口が減少することにより、様々な側面での都市の活力が失われることが懸念されます。総人口の減少により地域消費の規模が縮小することが予想され、更に生産年齢人口の減少により地域の生産能力が減退することから、生産・消費の両面から経済活動の減退が加速してしまうことが懸念されます。

▽人口規模の減少から、集落や地域コミュニティを維持する力も低下します。生産年齢以下の若い世代の人口減少により、その力の低下が加速してしまうとともに、地域の伝統行事や文化などの伝承能力も低下してしまうことが懸念されます。中でも、山間部や農村地域はこうした傾向が強く、こうした地域での地域保全機能の低下は、森林や農地の荒廃にもつながり、災害への脆弱性が高まるおそれがあります。

▽人口バランスを示す人口ピラミッドは、本来の「釣鐘型」から大きく形を崩し、高齢者世代が大きく膨らんでいきます。このため、少ない若者が多くの高齢者を支えるアンバランスな状況となっており、今後もこうした傾向が更に顕著になり、若い世代の更なる負担の増加が懸念されます。

▽人口の減少は、様々な行政活動への影響を与えます。人口減少による経済活動の低下から、税収基盤を悪化させるとともに、高齢社会の進展による社会保障などの行政需要が高まるなど、行政サービスの効率的な提供が困難になることから、行財政運営がますます厳しくなるおそれがあります。

II 亀山市における人口の将来展望

1 めざすべき人口の将来展望

本ビジョンにおける本市の将来人口の推計（亀山市基本推計）では、地方自治法における市の要件の一つである人口 50,000 人を 2020 年までは維持するものの、今後、人口は減少し続けることが見込まれています。

こうした状況を踏まえ、本市の行政基盤の根本である人口を可能な限り維持していくためには、自然減・社会減の対策をバランス良く進める必要があります。

(1) 人口展望

中長期的に見ても、本市が人口減少の局面へと推移することは避けがたい状況ですが、今後、人口減少対策を推進することにより、人口減少の進行を抑制することは可能であると考えられます。そして、少しでも早く人口減少対策に取りかかることができれば、早期に人口減少社会からの脱却を図ることが可能になります。

本市においては、自然減・社会減対策を効果的に進めることにより、3,700 人の人口減少の抑制効果を発揮させ、2060 年に概ね 50,000 人の総人口確保をめざす展望を定めます。

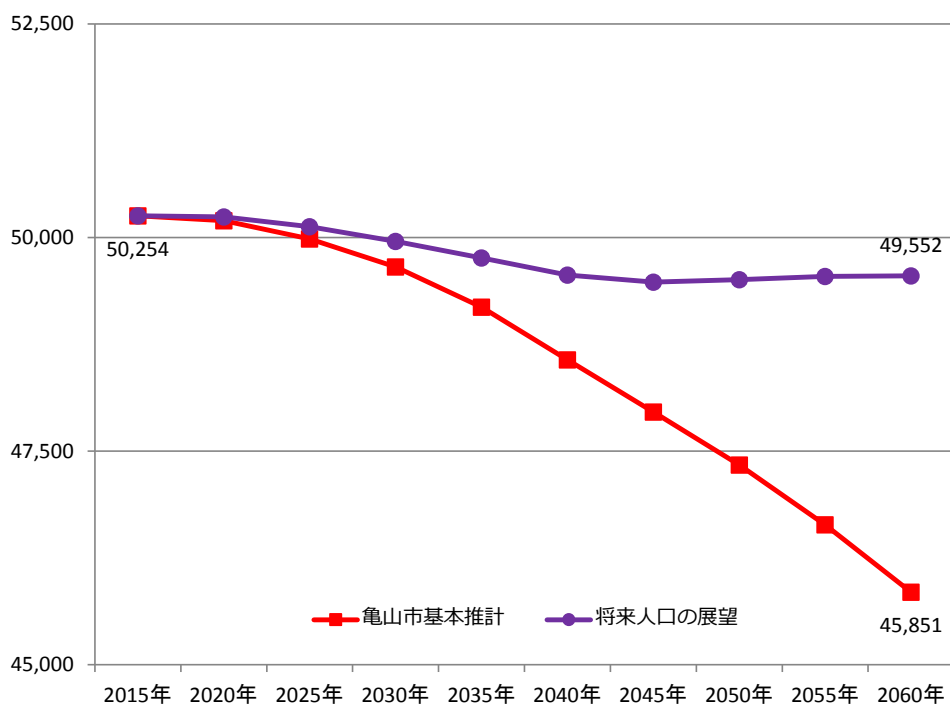
なお、本展望に関する指標の設定は次のとおりです。

【亀山市の将来人口の展望の設定】

	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
合計特殊出生率	1.60	1.66	1.72	1.78	1.85	1.91	1.97	2.03	2.07	2.07

		2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
純移動数	20～24 歳⇒25～29 歳	+20 組 の男女	+40 組 の男女	+60 組 の男女	+80 組 の男女	+100 組 の男女	+100 組 の男女	+100 組 の男女	+100 組 の男女	+100 組 の男女
	25～29 歳⇒30～34 歳									
	30～34 歳⇒35～39 歳									

【図Ⅱ-1 亀山市の将来人口の基本推計と将来展望】

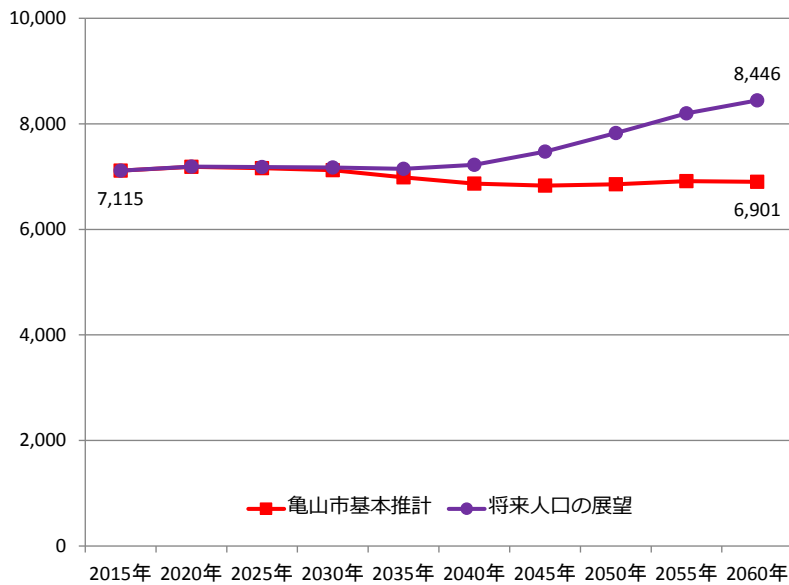


(2) 年齢別人口の展望

(年少人口)

亀山市基本推計と、将来の人口展望における年少人口(0～14 歳)の推計は、亀山市基本推計、人口展望ともに 2030 年頃までは大きな変化は見られませんが、それ以降、人口展望においては、年少人口が増加局面へと移り、人口減少対策に一定の歯止めができることが見込まれます。

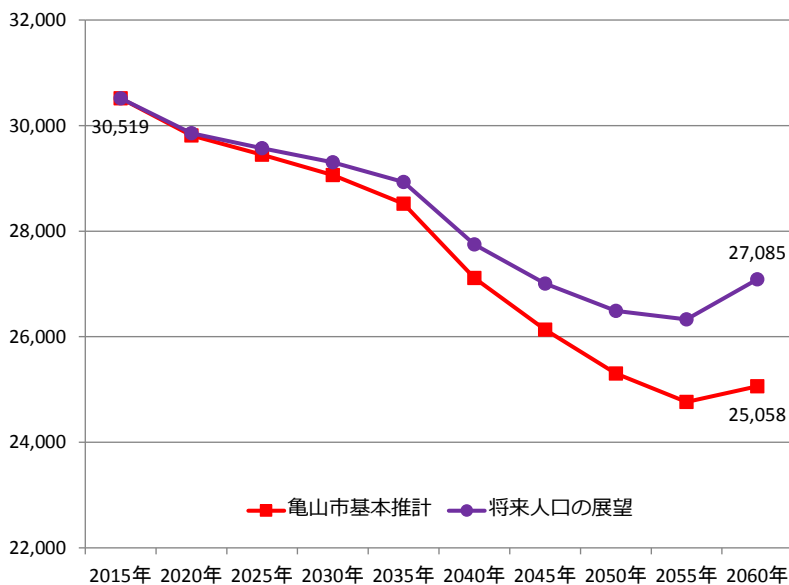
【図Ⅱ-2 亀山市の年少人口の将来展望】



(生産年齢人口)

一方、生産年齢人口(15～64 歳)の推計は、いずれの場合も大きな減少となりますが、亀山市基本推計、人口展望ともに 2055 年を底に増加に転じるものと見込まれ、年少人口以上に人口減少抑制に時間を要すると考えられます。

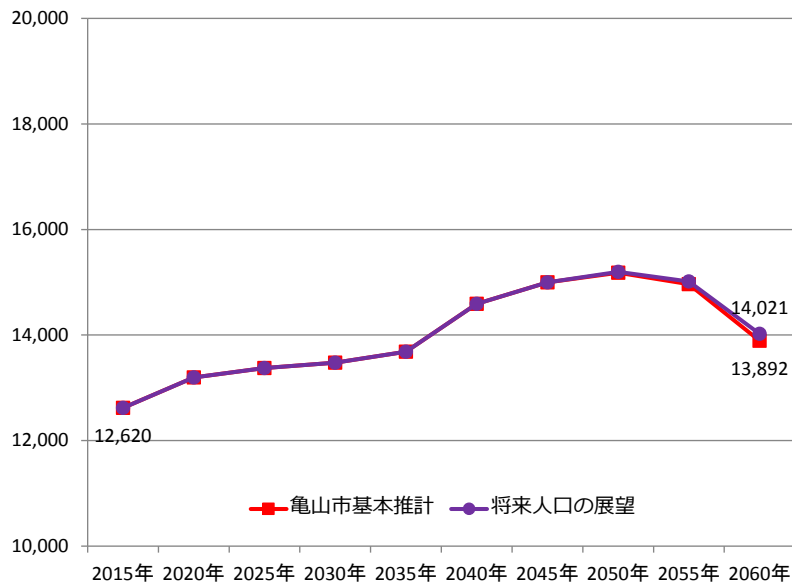
【図Ⅱ-3 亀山市の生産年齢人口の将来展望】



(老年人口)

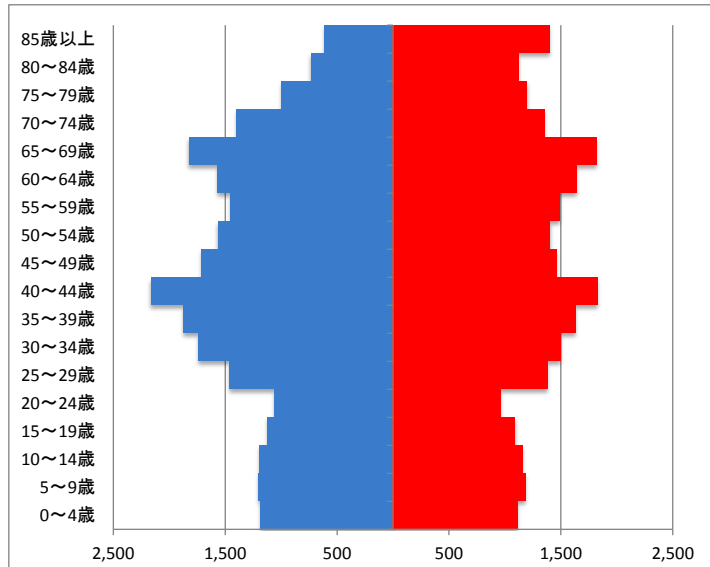
更に、老年人口(65歳以上)の推計は2050年まで上昇が続いた後、減少し始めるものと見込まれます。

【図Ⅱ-4 亀山市の老年人口の将来展望】

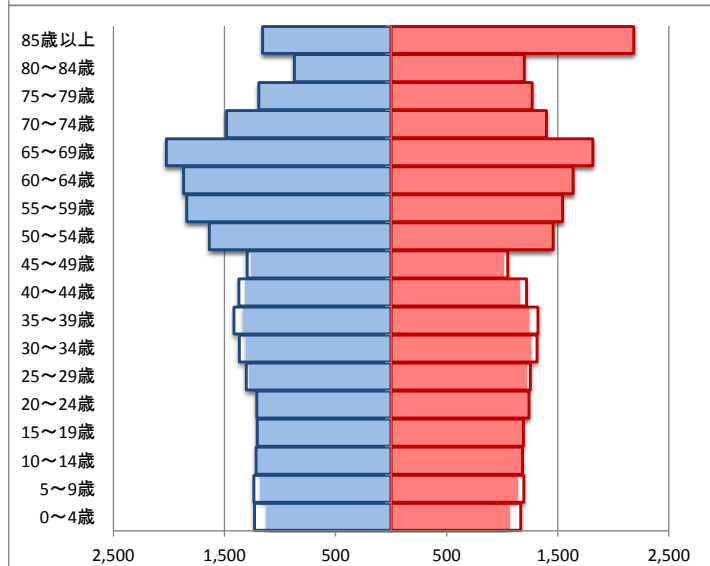


【図Ⅱ-5 2015年実績値、2040年・2060年の基本推計及び将来展望の人口ピラミッド比較】

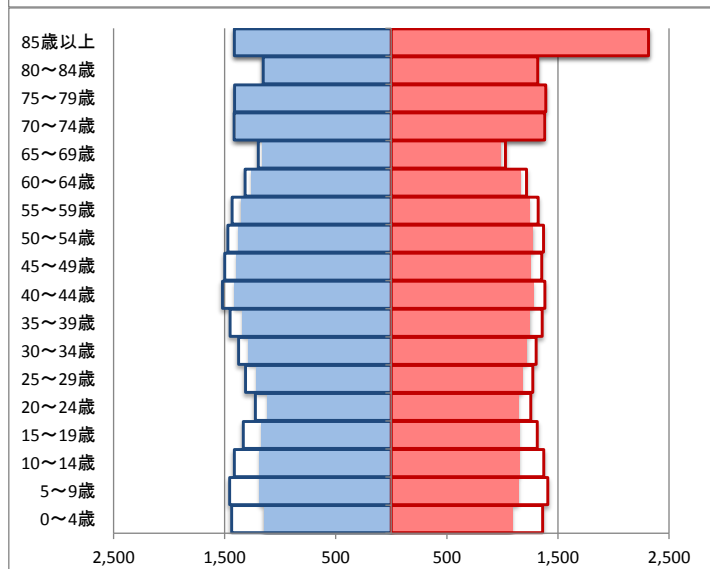
2015年



2040年



2060年



(3) 対策の方針

人口減少の抑制に取り組んでいくためには、市が主体性を持った取組を進めることも重要ですが、市民一人ひとりが人口減少に関する現状と課題を正しく理解し、市と市民がともに協力し合いながら取組を進めることが重要です。

そのため、市では、本ビジョン及び一体的に策定する亀山市まち・ひと・しごと創生総合戦略に関する情報を積極的に公表・周知し、市民や関係者への理解を深める取組を推進します。

更に、市の進める人口減少対策の柱となる「自然減対策」及び「社会減対策」については、次の方針に基づき進めます。

【自然減対策】

自然減対策は、市民の結婚・出産・子育てなどの希望が叶えられるよう、必要な時に、必要な支援を、必要な人に対して提供することで、人生の様々なステージに合わせた取組を進めます。

【社会減対策】

社会減対策は、亀山市がこれまで培ってきた「子育てにやさしいまち」、「環境にやさしいまち」などといった都市としての魅力を更に磨き、多くの人々にとって住みたいまちであり続けることが重要です。

こうした本市の魅力に更なる磨きをかけるとともに、市の魅力を広く知ってもらえるよう、シティプロモーション活動にも取り組んでいきます。